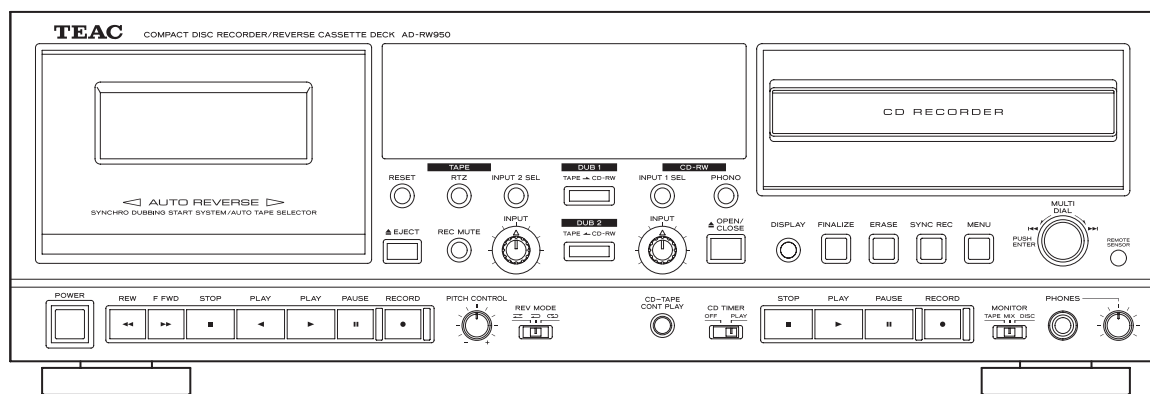
D01251801E

取扱説明書

AD-RW950

CD/Cassette Recorder

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(3cm以上)離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	イヤホンやヘッドホンからの過度の音圧は、聴覚障害の原因となります。聴覚障害の可能性を防ぐために、長時間，高音量で聴かないで下さい。
指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年１回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

警告

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す** ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入は、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のケーブルを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障・火災・感電の原因となります。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告　乾電池に関する警告

禁止

乾電池は絶対に充電しない
破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

警告　電池に関する警告

強制

電池を入れるときは、極性表示 (プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き) に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる
間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

長時間使用しないときは電池を取り出しておく
液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。

禁止

指定以外の電池は使用しない
新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない
破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損することがあります。

炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない
本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

注意　電池に関する注意

禁止

金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない
ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。

電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

分解禁止

分解しない
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5 年に 1 度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。

目　次

はじめに

付属品

万一付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社AVお客様相談室(裏表紙に記載)にご連絡ください。

- 本体 x1
- 電源コード x1
- リモコン（RC-1321） x1
- リモコン用乾電池（単 3） x2
- RCA オーディオケーブル x3
- 取扱説明書（本書、保証書付き） x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン / 端子などを「**MENU** ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を TRACK のように表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオ CD」形式と表記する場合があります。
- MP3 ファイルを記録した CD を「MP3 ディスク」と表記します。
- 「オーディオ CD」、「MP3 ディスク」を総称して、「CD」と表記する場合があります。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。
弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担いたしません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏 5 度～ 35 度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

電源について

- 付属の電源コードを **AC IN** 端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V（50-60Hz）以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1 ～ 2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

CD（コンパクトディスク）について

本機で再生できるディスク

「Compact Disc Digital Audio」ロゴマークのあるCD(12cm/8cm)

● ロゴマークは、ディスクレーベルやパッケージに表示してあります。

音楽CDフォーマットで正しく記録され、ファイナライズされたCD-RおよびCD-RW。
または、MP3ファイルが記録され、ファイナライズされたCD-RおよびCD-RW。

本機は上記のディスクをアダプターなしで再生することができます。上記以外のディスクは再生できません。

⚠ **上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。**

- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。
- 以下のディスクは本機で読込み、再生ができません。
  ビデオ CD
  CD-ROM
  スーパーオーディオ CD
  DVD ビデオ
  DVD オーディオ
  DVD-ROM

⚠ **DVD ビデオ、DVD オーディオ、DVD-ROM などをディスクトレーに入れると、ディスクを読み込もうとして高速回転します。万が一これらのディスクを入れてしまった場合は、ディスクを傷つけるおそれがありますので、必ず回転が終わってから取り出してください。(「TOC READING」の表示中には取り出さないでください)**

- コピーコントロール CD や Dual Disc など、CD の標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

本機で録音できるディスク

音楽用CD-RおよびCD-RW

パッケージに「音楽用」､「for MUSIC」等の表記があります。

- コンピュータなどを使用して記録されたコンピュータ用の CD-R/CD-RW は、音声規格に従って正しく録音されていれば再生することができますが、本機で録音 / ファイナライズ / 消去することはできません。

コンピューター用ディスクの見分け方
ディスクに「650MB」や「700MB」などのデータ容量表示があるものはコンピューター用です。音楽録音用にはデータ容量の表記はありません。

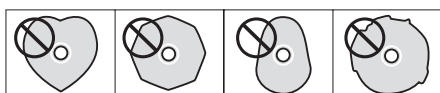
- 本機では音楽用 CD フォーマット (CD-DA) 以外で記録 (録音) することは出来ません。

CD-R/CD-RWについて

本機は音楽用CDフォーマット(CD-DA)とMP3フォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。
また、音楽用CDフォーマット(CD-DA)でCD-R/CD-RWに録音できます。

- CD レコーダーで作成したディスクを再生するときは、忘れずにファイナライズしてください。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生 / 録音できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクの発売元にお問い合わせください。

使用上の注意

- ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて録音／再生ができなくなる場合があります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ハート形や八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ディスクの取扱い

- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- 信号記録面（レーベルがない面）に傷、指紋、汚れなどがあると、録音／再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。信号記録面を手で触らぬようご注意ください。

取り出し方　　　持ち方

ディスクの保存について

- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形・変質して、再生できなくなるおそれがあります。
- CD-R/CD-RWは、通常のCDと比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。
- ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

お手入れ

- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。

- レコードクリーナー、帯電防止剤、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

OPCについて

OPC* とは、録音するディスクの特性に合わせてレーザーパワーを調整することです。停止状態から録音待機状態にするときに行われます。
OPCを行っている間は、ディスプレーに Now OPC と表示されます。

※ OPC（Optimum Power Control）

デジタル録音するときのルール

シリアルコピーマネージメントシステム
(Serial Copy Management System)

民生用のデジタルオーディオ機器で利用されている、デジタルデータのコピー制御を行う著作権保護技術です。音楽ソフトの著作権を保護するため、各種デジタルオーディオ機器の間で、「デジタル信号をデジタル信号のまま録音すること(コピー)」は「1世代まで」と規制されています。
「CD、MDなど市販のデジタル音楽ソフト」や、「アナログレコードやFM放送などをデジタル録音したもの」のコピーはできますが、コピーをさらにコピーすることはできません。

本機は、シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)の規格に準拠しています。

カセットテープについて

使用テープ

録音可能テープ　：タイプI（ノーマル）
　　　　　　　　　タイプII（ハイポジション/クローム）
再生可能テープ　：タイプI（ノーマル）
　　　　　　　　　タイプII（ハイポジション/クローム）
　　　　　　　　　タイプIV（メタル）

録音防止用つめ

誤って録音内容を消してしまうミスを防ぐために、録音防止用のつめがあります。つめはカセットテープのA（1）面、B（2）面用にそれぞれあります。ドライバーの先などで折って取り除くと、録音防止装置が働いて録音ができません。
再度、録音をしたいときは、セロハンテープを貼ってつめ穴をふさいでください。

テープの「たるみ」

ご使用の前に、カセットテープのテープがたるんでいないか確かめてください。テープがキャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻き取ってください。

カセットテープの自動検出孔について

カセットテープにはテープ自動検出孔が付いています。
本機では、テープの種類を自動検出します。

お使いいただけないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。また、テープが巻き込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、使わないでください。

- **形状精度の悪いカセットテープ**
  カセットが変形する、テープの走行が不安定なもの、早送り/巻き戻し中に異音を発生するカセットテープ。
- **長時間テープ**
  90分を越えるカセットテープは、大変薄くて伸びやすいため、ワウフラッターの原因ともなります。また、テープが機械に巻き込まれることがありますので、使わないでください。

取り扱い上のご注意

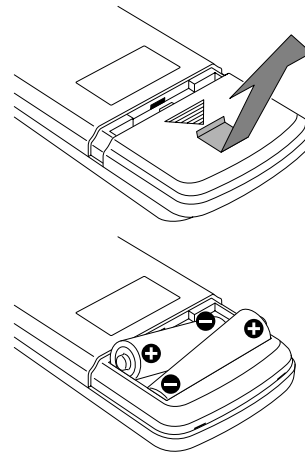
- カセットテープを分解する、またはテープを引き出さないでください。
- テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。
- ゴミやほこりの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用、保管は避けてください。
- 強磁場での使用、保管は避けてください。雑音が入る、録音内容が消えてしまうことがあります。

リモコンについて

ご使用上のご注意

- リモコンは、本体右端の REMOTE SENSOR ウィンドウに向けて操作してください。
- 長い間（1 ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし液漏れを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤操作させることがあります。

電池の入れ方

1. 裏側のふたを開ける。
2. 乾電池の⊕と⊖の向きに注意して、単3形電池を2本挿入します。
3. ふたを閉める。

電池の交換時期は

操作範囲が狭くなる、またはボタンを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

電池についてのご注意

乾電池を誤って使用すると、液漏れや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

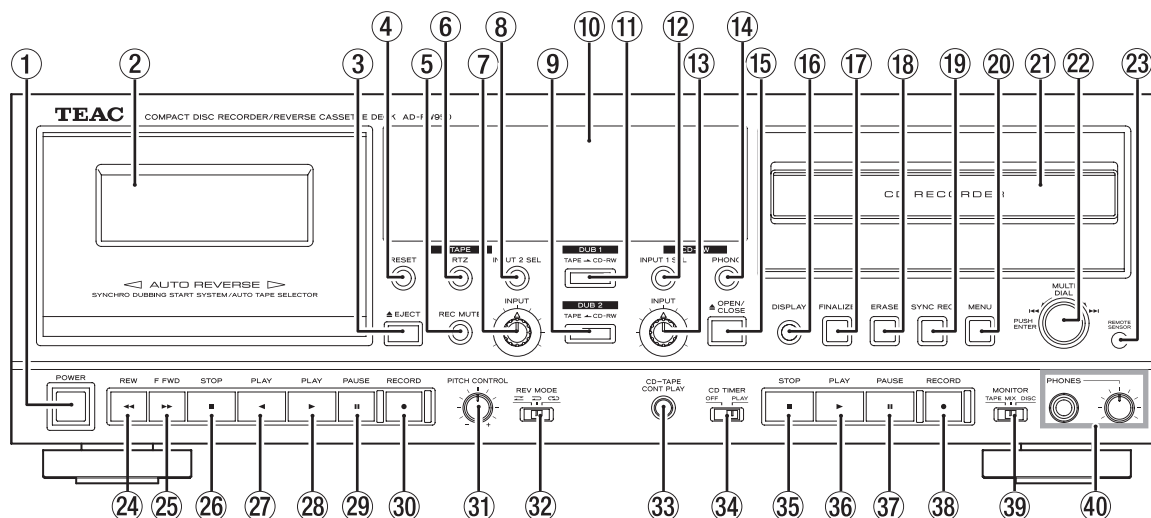
- 乾電池の ⊕ と ⊖ の向きを、電池ケースの指示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には、同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は、絶対に充電しないでください。

ユーザー登録について

TEAC のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

http://teac.jp/support/registration/

各部の名前とはたらき（本体）

フロントパネル

① POWERスイッチ
電源をオン/オフします。

② カセットホルダー
カセットテープを挿入します。テープ側を下にして、挿入してください。
EJECTボタンを押すと、カセットホルダーが開きます。
閉じるときは、手で軽く押します。

③ EJECTボタン
カセットホルダーを開きます。

④ RESETボタン
テープカウンターを 0000 にします。

⑤ REC MUTEボタン
カセットテープ録音中にこのボタンを押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に録音待機状態になります。

⑥ RTZボタン
カセットテープを 0000 位置にロケート（移動）します。

⑦ INPUTつまみ（カセット部）
カセット部の入力レベルを調整します。
メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定しておくと、ディスクからの自動ダビング時にはINPUTつまみは機能しなくなります。

⑧ INPUT 2 SELボタン
カセット部の録音ソース（ LINE 2 または DISC ）を選択します。

⑨ DUB 2 [TAPE ← CD-RW] ボタン
このボタンを押すと、ディスクからカセットテープへの自動ダビングが始まります。（→ 33ページ「CDをカセットテープにダビング」）

⑩ ディスプレー
トランスポート状態、選択中の録音ソース、録音/再生信号レベル、メニューなどを表示します。

⑪ DUB 1 [TAPE → CD-RW] ボタン
このボタンを押すと、カセットテープからCD-R/CD-RWへの自動ダビングが始まります。（→ 33ページ「カセットテープをCDにダビング」）

⑫ INPUT 1 SELボタン
CDレコーダーの録音ソース（ OPTICAL / COAXIAL / LINE 1 / PHONO / TAPE ）を選択します。

⑬ INPUTつまみ（CD側）
CDレコーダーの入力レベルを調整します。
メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定しておくと、カセットテープからの自動ダビング時にはINPUTつまみは機能しなくなります。

⑭ PHONOボタン
RIAA PHONO INPUT端子に入力されるアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）の再生信号をCDやカセットテープに録音することができます。
メニューを使ってCDとカセットテープのどちらに録音するかを選択します。（→ 26ページ「アナログレコードをCDにダビング」）（→ 31ページ「アナログレコードをカセットテープにダビング」）

⑮ OPEN/CLOSEボタン
ディスクトレーを開閉します。

⑯ DISPLAYボタン
ディスプレーに表示するディスクの時間モードを切り換えます。

⑰ FINALIZEボタン
CD-R/CD-RWをファイナライズするときに使います。

⑱ ERASEボタン
CD-RWのデータを消去するときに使います。

⑲ SYNC RECボタン
シンク録音機能をオン/オフします。

⑳ MENUボタン
メニューを表示します。

㉑ ディスクトレー
OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。
ディスクトレーを閉じるときは、OPEN/CLOSEボタンを押します。

㉒ MULTI DIAL（⏮/⏭）
ディスク停止中、メニュー操作の際にこのダイヤルを回して選択肢を選びます。また、操作の確認表示がディスプレーに現れた場合にこのダイヤルを押すと「実行」します。
ディスク再生中、トラックスキップを行います。
ディスク録音中、録音トラック数の表示、指定を行います。

㉓ REMOTE SENSORウィンドウ
リモコンからの赤外線信号を受信します。
リモコン使用時は、このウィンドウに向けて操作してください。また、リモコンからの信号を正しく受けるよう、このウィンドウをふさがないようご注意ください。

㉔ REWボタン
カセットテープを巻き戻します。

㉕ F FWDボタン
カセットテープを早送りします。

㉖ STOPボタン（カセット部）
カセットテープを停止します。

㉗ PLAY [◀] ボタン（カセット部）
カセットテープをリバース（逆）方向に再生します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

㉘ PLAY [▶] ボタン（カセット部）
カセットテープをフォワード（正）方向に再生します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

㉙ PAUSEボタン（カセット部）
再生や録音を一時停止します。
録音待機/再生一時停止時は、録音/再生を開始します。

㉚ RECORDボタン（カセット部）
停止中に押すと、録音待機状態になります。

㉛ PITCH CONTROLつまみ
テープスピードを±10%の範囲で調整することができます。

㉜ REV MODEスイッチ
テープ走行モードを、片方向（⇄）、両方向（⊃）、連続（⊂⊃）（再生のみ）、の中から選択します。
録音と再生の両方に働きます。

㉝ CD-TAPE CONT PLAYボタン
CDとカセットテープの連続再生モードのオン/オフを行います。

㉞ CD TIMER（OFF/PLAY）スイッチ
CDタイマーの設定を行います。
「PLAY」側に設定しておくと、CDをセットした状態で本機の電源を入れたときにCDが自動的に再生を始めます。

㉟ STOPボタン（CD側）
録音や再生を停止します。

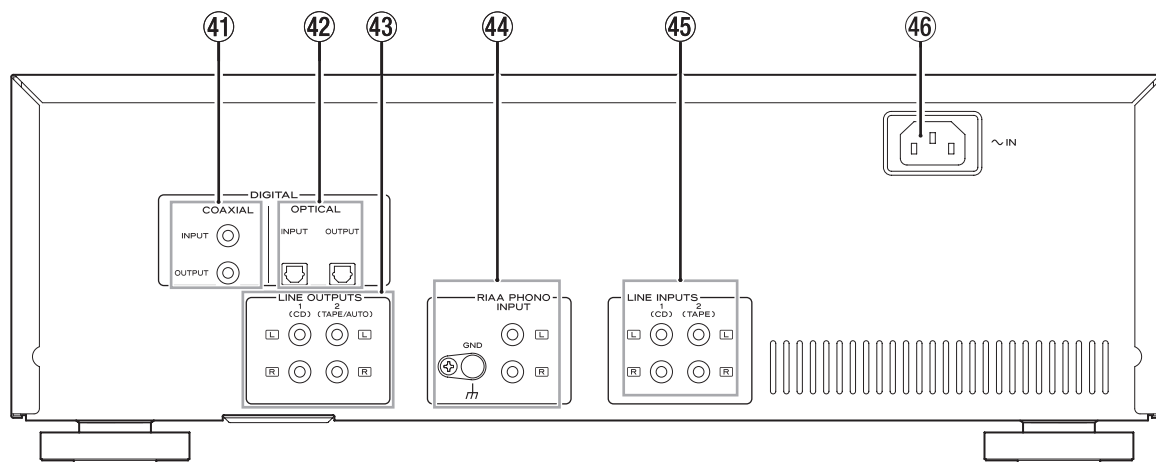
㊱ PLAYボタン（CD側）
再生を開始します。
録音待機中/再生一時停止中にこのボタンを押すと、録音/再生を開始します。

㊲ PAUSEボタン（CD側）
録音や再生を一時停止します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

㊳ RECORDボタン（CD側）
録音待機状態にします。
CDが入っていないときは、モニターモードになります。
録音時に押すと、トラック番号を更新します。

㊴ MONITOR（TAPE/MIX/DISC）スイッチ
ヘッドホン出力のモニターソースを選択します。
カセット部、CD部または両方のミックスの中から選択できます。

㊵ PHONES端子/つまみ
ヘッドホン（6.3mmステレオ標準プラグ）を接続します。
右側のつまみでヘッドホンの音量を調整します。

リアパネル

㊶ DIGITAL COAXIAL（INPUT/OUTPUT）端子

㊷ DIGITAL OPTICAL（INPUT/OUTPUT）端子

それぞれIEC60958-3（S/PDIF）のデジタル入力/出力端子です。

入力信号は、CD部の録音ソースにもなります。また、サンプリングレートコンバーター機能により、サンプリング周波数が32kHz ～ 48kHzの範囲のデジタル音声信号を入力することができます。

出力端子からは、CDのデジタル音声信号が出力されます。

㊸ LINE OUTPUTS 1（CD）（L/R） 端子/2（TAPE/AUTO）（L/R）端子

1（CD）端子からはCDのアナログ音声信号、2（TAPE/AUTO）端子からはカセットのアナログ音声信号が出力されます。

2（TAPE/AUTO）端子は、メニュー選択によりカセットとCDの再生音を自動切り換え（カセットの再生音が優先）で出力することもできます。

アンプなどの機器と接続します。

㊹ RIAA PHONO INPUT（L/R）端子/GND端子

アナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を接続します。

入力信号の送り先（CD部またはカセット部）は、メニューで選択します。

GND端子には、アナログレコードプレーヤーのアース線を接続します。

メモ

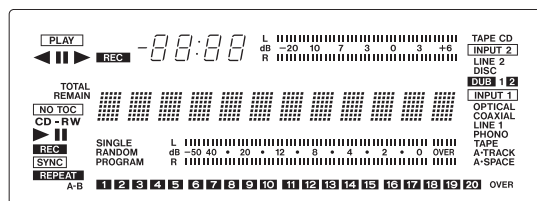
アナログレコードプレーヤーをLINE INPUTS 1（CD）端子およびLINE INPUTS 2（TAPE）端子に接続しないでください。また、ライン出力の機器をRIAA PHONO INPUT（L /R）端子に接続しないでください。

㊺ LINE INPUTS 1（CD）（L/R）/2（TAPE）（L/R）端子

1（CD）端子にはCD部のアナログ入力、2（TAPE）端子にはカセット部のアナログ入力を接続します。

㊻ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

ディスプレー

① ◀/▶（テープ走行方向表示）インジケーター
カセットテープの再生/録音時の走行方向が点灯します。
▶はフォワード（正）方向、◀はリバース（逆）方向を示します。

② II（PAUSE）インジケーター（カセット部）
カセットテープが再生一時停止中、または録音待機中に点灯します。

③ PLAY（カセット部）
カセットテープが再生/録音中に点灯します。

④ REC（カセット部）
カセットテープに録音中、または録音待機中に点灯します。

⑤ テープカウンター
カセットテープの走行（テープリールの回転）に合わせて変化します。リバース（逆）方向走行時は数字が減少します。
0000 〜 9999 までカウントしますが、リバース（逆）方向走行時 0000 以下は 9999 に戻ります。

⑥ キャラクター表示部
ディスクのトラック情報、時間情報、メニュー、メッセージを表示します。

⑦ レベルメーター（カセット部）
カセットテープの再生レベル、録音入力レベルを表示します。

⑧ TAPE-CD連続再生モード表示
CDとカセットテープの連続再生モード（CD-TAPE CONT PLAY）中の状態表示を行います。
カセットテープ再生中は TAPE が点滅し、CD再生中は CD が点滅します。

⑨ 時間表示モード表示
時間表示モードに合わせて TOTAL（全時間）と REMAIN（残時間）が点灯します。両方とも消灯しているときは、再生中のトラック内の経過時間表示モードになります。

⑩ ディスク情報表示
TOCが書き込まれていないディスク（ファイナライズしていないディスク）は NO TOC が点灯します。
CD-Rが入っているときは、CD-R が点灯します。
CD-RWの場合は、CD-RW が点灯します。

⑪ ▶（PLAY）インジケーター（CD部）
ディスクが再生中に点灯します。

⑫ REC（CD部）
CD-R/CD-RWに録音中、録音待機中に点灯します。

⑬ SYNC
シンク録音機能をオンにすると点灯します。

⑭ リピートモード表示
リピートモードにすると、[REPEAT] が点灯します。
A-Bリピートモードでは、[REPEAT] と A-B が点灯します。
A-Bリピートポイントを指定している途中（Bポイントが未定の状態）のときは、A-B が点滅します。

⑮ INPUT 2
通常は点灯しており、その下に表示される録音ソース表示がINPUT 2に対する物であることを示しています。
PHONOボタンを使ったアナログレコードからの録音動作時のみ、カセットテープへの録音かディスクへの録音かを示す機能になり、CD-RWへの録音中は消灯します。

⑯ LINE 2、DISC
INPUT 2（カセットテープ）への録音ソースを表示します。

LINE 2　：LINE 2（ライン入力端子）が選択されているときに点灯します。
DISC　：DISC（ディスク再生出力との内部接続）に選択されているときに点灯します。

⑰ ダビング状態表示
ダビング状態を表示します。
カセットテープからディスクへダビングするときは、DUB と 1 が点灯します。
ディスクからカセットテープへダビングするときは、DUB と 2 が点灯します。

⑱ INPUT 1
通常は点灯しており、その下に表示される録音ソース表示がINPUT 1（ディスク）に対する物であることを示しています。
PHONOボタンを使ったアナログレコードからの録音動作時のみディスクへの録音かカセットテープへの録音かを示す機能となり、カセットテープへの録音中は消灯します。

⑲ OPTICAL、COAXIAL、LINE 1、TAPE
INPUT 1（ディスク）への録音ソースを表示します。

OPTICAL　：OPTICAL（光デジタル入力端子）が選択されているときに点灯します。
COAXIAL　：COAXIAL（同軸デジタル入力端子）が選択されているときに点灯します。
LINE 1　：LINE 1（ライン入力端子）が選択されているときに点灯します。
PHONO　：PHONO（アナログレコード入力端子）が選択されているときに点灯します
TAPE　：TAPE（カセットテープ）が選択されているときに点灯します。

⑳ A・TRACK
オートトラック機能をオンにすると点灯します（オートトラック機能を TIME に設定した場合のみ録音中に点滅します）。

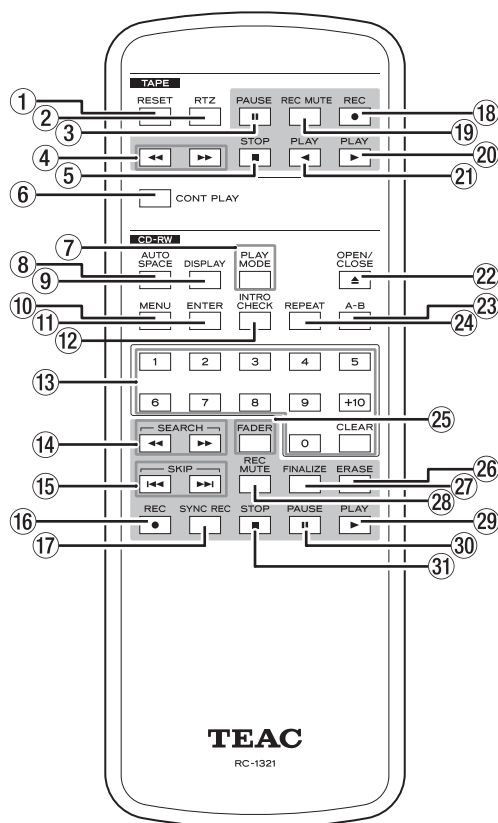
㉑ A・SPACE
オートスペース再生機能をオンにすると点灯します。

㉒ II（PAUSE）インジケーター（CD部）
ディスクが再生一時停止中、録音待機中に点灯します。

㉓ 再生モード表示
シングル再生モードでは、SINGLE が点灯します。
ランダム再生モードでは、RANDOM が点灯します。
プログラム再生モードでは、PROGRAM が点灯します。
通常の再生モードでは、これら3つのインジケーターが全て消灯します。

㉔ レベルメーター（CD部）
ディスクの再生レベル、録音入力レベルを表示します。

㉕ ミュージックカレンダー（CD部）
再生可能なトラック番号が点灯します。
トラック番号21以上は、OVER が点灯します。
再生が終了したトラック番号は、消灯します。

各部の名前とはたらき（リモコン）

① **RESETボタン**
テープカウンターを 0000 にします。

② **RTZボタン**
テープを 0000 位置（RTZ：Return to Zero）にロケート（移動）します。

③ **PAUSEボタン**
カセットテープの再生や録音を一時停止します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

④ **◀◀/▶▶ ボタン（カセット部）**
カセットテープを巻き戻し/早送りします。

⑤ **STOPボタン（カセット部）**
カセットテープを停止します。

⑥ **CONT PLAYボタン**
CDとテープの連続再生モードのオン/オフを行います。
本体の**CD-TAPE CONT PLAY**ボタンと同じ働きをします。

⑦ **PLAY MODEボタン**
CDの再生モードを、通常の再生、1曲再生（シングル）、プログラム再生、ランダム再生の中から選択します。

⑧ **AUTO SPACEボタン**
ディスクトラック再生時に、自動的にトラック間に約4秒のスペース（無音部分）を入れます。

⑨ **DISPLAYボタン**
ディスプレーに表示するディスクの時間表示モードを切り換えます。

⑩ **MENUボタン**
メニューを表示します。

⑪ **ENTERボタン**
操作の確認がディスプレーに表示された場合、このボタンを押すと「実行」します（本体の**MULTI DIAL**（I◀◀/▶▶I）を押したときと同じ働きをします）。

⑫ **INTRO CHECKボタン**
CDの各トラックの冒頭を10秒ずつ再生します。

⑬ **数字ボタン（0～9ボタン、＋10ボタン）/CLEARボタン**
CDの選曲に使います。

⑭ **SEARCH（◀◀/▶▶）ボタン**
CDのサーチ（早戻し/早送り）を行います。

⑮ **SKIP（I◀◀/▶▶I）ボタン**
メニューの選択肢を選ぶ、またはCDトラックのスキップを行います（本体の**MULTI DIAL**（I◀◀/▶▶I）を回したときと同じ働きをします）。

⑯ **RECボタン（CD部）**
録音待機状態にします。
ディスクが入っていないときは、モニターモードになります。
録音中に押すと、トラック番号が更新（インクリメント）されます。

⑰ **SYNC RECボタン**
シンク録音機能をオン/オフします。

⑱ **RECボタン（カセット部）**
停止中に押すと、録音待機状態になります。

⑲ **REC MUTEボタン**
カセットテープ録音中にこのボタンを押すと、約4秒間の無信号録音を行った後に停止します。

⑳ **PLAY [▶] ボタン（カセット部）**
カセットテープをフォワード（正）方向に再生します。

㉑ **PLAY [◀] ボタン（カセット部）**
カセットテープをリバース（逆）方向に再生します。

㉒ **OPEN/CLOSEボタン**
ディスクトレーを開閉します。

㉓ **A-Bボタン**
A-Bリピート区間の始点と終点を設定します。
A-Bリピート中に押すと、A-Bリピートモードが解除されます。

㉔ **REPEATボタン**
CDのリピートモードをオン/オフします。

㉕ **FADERボタン**
CD-R/CD-RWに録音をするとき、自動的にフェードイン/アウトを行います。フェードタイムは、メニューで設定できます。

㉖ **ERASEボタン**
CD-RWのデータを消去するときに使います。

㉗ **FINALIZEボタン**
ディスクをファイナライズするときに使います。

㉘ **REC MUTEボタン**
CD-R/CD-RWに録音中、このボタンを押すと約4秒間の無信号録音を行った後に停止します。

㉙ **PLAYボタン（CD部）**
再生を開始します。
録音待機中にこのボタンを押すと録音を開始します。

㉚ **STOPボタン（CD部）**
録音や再生を停止します。

㉛ **PAUSEボタン（CD部）**
録音や再生を一時停止します。
録音待機中/再生一時停止中は、録音/再生を開始します。

メニューの操作

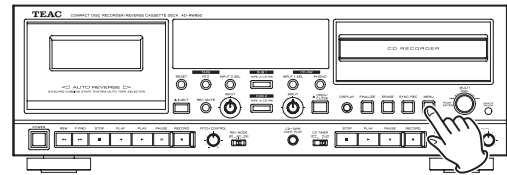
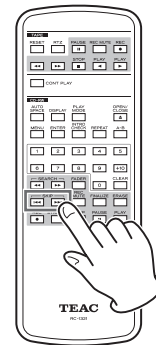
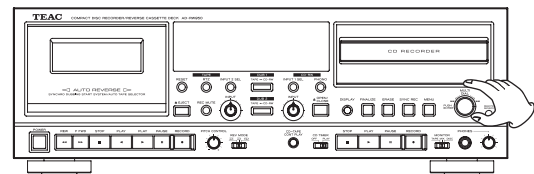
本機は、メニューシステムを使って各種初期設定を行います。
本機のメニューと初期設定は、以下の通りです。

メニュー表示	機能	初期設定	参照ページ
CD PITCH	CDのピッチコントロール機能のオン/オフ設定	OFF	→ 20 ページ
PITCH	CDのピッチコントロール値の設定	0.0%	→ 20 ページ
CD KEY	CDのキーコントロール機能のオン/オフ設定	OFF	→ 20 ページ
KEY LEVEL	CDのキーコントロール値の設定	0	→ 20 ページ
SRC	サンプリングレートコンバーター機能のオン/オフ	ON	→ 24 ページ
VOLUME	デジタルボリューム値の設定	0dB	→ 23 ページ
A_TRK	オートトラック機能の設定	LEVEL	→ 27 ページ
A_TIME	タイムトラックインクリメント時間の設定	1min	→ 27 ページ
S_LVL	サウンドレベルの設定	-24dB (アナログ) -54dB (デジタル)	→ 26 ページ
FADE IN	フェードインタイムの設定	3s	→ 28 ページ
FADE OUT	フェードアウトタイムの設定	3s	→ 28 ページ
DUB>VOL	ダビング時のボリュームコントロール	VOL THRU	→ 33 ページ
PHONO	フォノ入力時の録音先の設定	DISC	→ 26 ページ → 31 ページ
MP3 DIR	MP3ディスクのディレクトリ再生の設定	OFF	→ 21 ページ
OUT 2	**LINE OUTPUTS 2 (TAPE)** 端子の出力信号選択	TAPE	→ 32 ページ

メモ

メニューの設定値および**INPUT 1 SEL**ボタンおよび**INPUT 2 SEL**ボタンの設定は、バックアップされます。

メニュー操作の基本

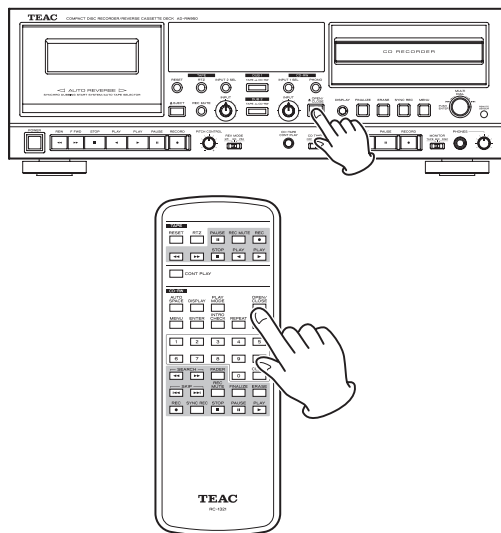
1. 本体または付属の専用リモコン（RC-1321）の**MENU**ボタンを押して、希望するメニューを表示します。

2. **MULTI DIAL**（⏮/⏭）またはリモコンの**SKIP**（⏮/⏭）ボタンを押して、設定値を選択します。

メニューを抜けるときは、**MULTI DIAL**（⏮/⏭）またはリモコンの**ENTER**ボタンを押します。また、本体またはリモコンの**MENU**ボタンを何度か押して、通常表示（カウンター表示）に戻します。

CD の再生

CDの基本的な再生

本機のCDレコーダーは、市販のCD（CD-DA）およびCD-R/CD-RWを再生することができます（通常のCDプレーヤーではファイナライズ済みのディスクしか再生できませんが、本機ではファイナライズが済んでいないディスクも再生することができます）。

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。

2. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレーを開けます。

3. ディスクのレーベル面を上にして、ディスクトレーに載せます。

4. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレーを閉めます。

- TOC Reading を表示した後、ディスクの種類、総トラック数、総再生時間を表示します。
- トラック番号を示すインジケーターがディスプレーの下側に、最大 20 まで点灯します。ディスクの総トラック数が 20 以上の場合は OVER が点灯します。
- ディスクの種類は、以下のように表示されます。

CD　　：市販のCD
CD-R　：CD-R
CD-RW　：CD-RW
NO TOC　：ファイナライズしていないCD-RまたはCD-RW

5. PLAYボタンを押して再生を始めます。

- 再生が終了したトラック番号のインジケーターが消えます。

再生を止めるには

STOPボタンを押します。

再生を一時停止するには

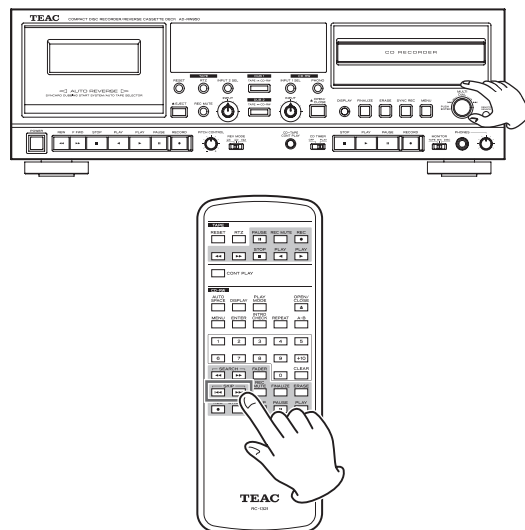
PAUSEボタンを押します。
もう一度PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押すと、再び再生が始まります。

ディスクを取り出すには

OPEN/CLOSEボタンを押します。
再生を停止してディスクトレーが開きます。

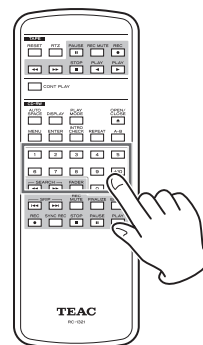
サーチ

トラックスキップ

本体のMULTI DIAL（⏮/⏭）を左右に回すと、フォワード方向/リバース方向にトラックがスキップします。
リモコンでは、SKIP（⏮/⏭）ボタンを使います。

メモ

- 再生状態で操作すると、スキップ後に再生開始します。
- プログラムモード再生中は、プログラムした曲の中でスキップを行います。
- 停止状態でトラックを選んだ場合は、その状態ではまだ何も動作しません。希望のトラック番号が表示されている状態でPLAY/PAUSEボタンを押してください。
- ディスクの最初のトラックでMULTI DIAL（⏮/⏭）を左に回すと、最後のトラックにスキップします。最後のトラックでMULTI DIAL（⏮/⏭）を右に回すと、最初のトラックにスキップします。

数字ボタン（0 ～ 9ボタン、+10ボタン）

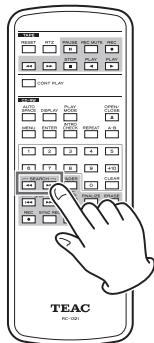
リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン、+10ボタン）を押すと、ダイレクトにトラックを選択できます。

例　トラック5　：5
　　トラック15　：+10 ➡ 5
　　トラック23　：+10 ➡ +10 ➡ 3

また、プログラムモードでは、プログラムの設定に数字ボタン（0 ～ 9ボタン、+10ボタン）を使います。

注意

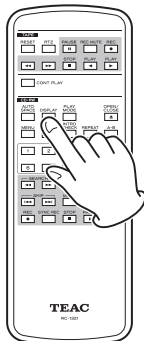
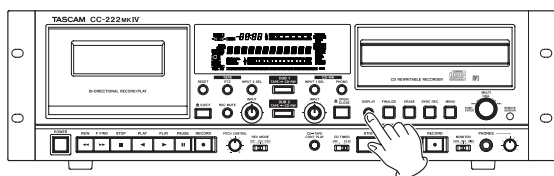
- ランダム再生モードでは操作できません。
- 存在しないトラックは受け付けません。

サーチ

リモコンのSEARCH（◀◀/▶▶）ボタンを押し続けると、フォワード方向/リバース方向にディスクをサーチします。

注意

MP3ディスクでは、サーチは行えません。

時間表示

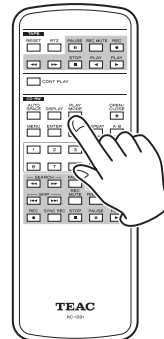
CD再生中は、4種類のモードで時間を表示することができます。DISPLAYボタンを押して、時間表示モードを切り換えます。

停止中は、TOTAL 表示に固定されます。

表示なし　：現在のトラックの経過時間を表示します。
TOTAL　：ディスクの経過時間を表示します。
REMAIN　：現在のトラックの残り時間を表示します。
TOTAL REMAIN：ディスクの残り時間を表示します。

メモ

プログラムモードでは、ディスク全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

再生モードについて

本機には、4つの再生モードがあります。
停止中にリモコンのPLAY MODEボタンを押して、再生モードを切り換えることができます。

選択中の再生モードがディスプレーに表示されます。

Continue　：通常の再生（ディスクの最後のトラックまでをトラック順に再生）
Single　：選択したトラックを再生後に停止
Random　：ランダムに再生（→ 17ページ「ランダム再生モード」）
Program　：プログラム順に再生（→ 18ページ「プログラム再生モード」）

- 電源を入れたときは、通常の再生モード（Continue）になります。

ランダム再生モード

トラック（曲）をランダムに再生します。

1. リモコンのPLAY MODEボタンを押して、ランダム再生モードにします。
   ディスプレーにRANDOM インジケーターが点灯します。
2. PLAYボタンを押すと、ランダム再生が始まります。
   - ランダム再生中に MULTI DIAL（⏮/⏭）を右に 1 回回すと、次のトラックがランダムに選択されます。
3. ランダム再生を停止するときは、STOPボタンまたはOPEN/CLOSEボタンを押します。

注意

ランダム再生モードのときは、スキップおよびサーチにより前のトラックに戻すことはできません。

CD の再生 (続き)

プログラム再生モード

最大99トラック（曲）までプログラムを組んで再生することができます。

1. 停止中にリモコンのPLAY MODEボタンを押して、プログラム再生モードにします。
ディスプレーの PROGRAM インジケーターが点灯します。

2. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン、+10ボタン）を使ってトラック番号を入力します。
プログラムしたいトラックを続けて入力することができます。

3. PLAYボタンを押して、プログラム再生を始めます。

注意

- プログラム再生中は、ランダム再生はできません。
- 再生中は、プログラムモードに切り換えることができません。プログラムモードにしたい場合は、停止中に行ってください。

メモ

- MULTI DIAL（⏮/⏭）を使って、プログラムすることもできます。MULTI DIAL（⏮/⏭）を回してトラックを選び、MULTI DIAL（⏮/⏭）を押すとプログラムできます。なお、再生中はMULTI DIAL（⏮/⏭）を回すとトラックをスキップします。
- プログラムできるのは、99曲までです。それ以上をプログラムしようとすると、エラーメッセージ PGM Full! が表示されます。
- プログラムした曲の合計時間が100分以上になると、--:-- が表示されます。

プログラムに曲を追加するには

リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン、+10ボタン）を使って追加したいトラック番号を入力します。プログラムの最後に入力したトラックが追加されます。

プログラムの一部を削除するには

リモコンのCLEARボタンを押します。
最終トラック（曲）のプログラムが消去されます。

全てのプログラムを消去するには

次のいずれかを行います。

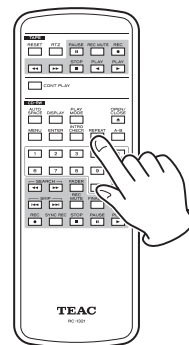
- リモコンの PLAY MODE ボタンを押して、プログラム再生モード以外のモードに切り換えます。
- OPEN/CLOSE ボタンを押します。
- 停止中に、STOP ボタンを押します。
- POWER スイッチを押して、電源を切ります。

リピート再生モード

2つのリピート再生モードがあります。

通常のリピート再生

ディスクの全てのトラックを繰り返し再生します。

1. リモコンのREPEATボタンを押して、リピート再生をオンにします。

ディスプレーに Repeat ON が表示され、[REPEAT] インジケーターが点灯します。
この状態で、ディスクの全てのトラックを繰り返し再生できます。
再生中にリピート再生をオンした場合は、そのまま再生を続け、ディスクの最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。
停止中にオンした場合は、PLAYボタンを押すとリピート再生が始まります。

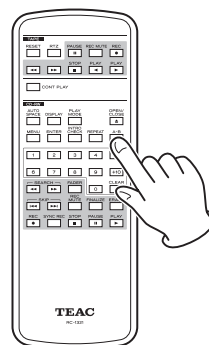
2. リピート再生をオフするには、リモコンのREPEATボタンをもう一度押します。
ディスプレーに Repeat OFF が表示され、[REPEAT] インジケーターが消灯します。

メモ

リピート再生をシングル再生、プログラム再生、ランダム再生と組み合わせると、1曲リピート、プログラムリピート、ランダムリピートが行えます。

A-Bリピート再生

トラック内の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生します。

1. 再生中、リピート再生したい区間の始点（Aポイント）で、リモコンのA-Bボタンを押します。

ディスプレーの [REPEAT] インジケーターが点灯し、A-B インジケーターが点滅します。

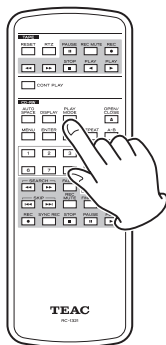
2. リピート再生したい区間の終点（Bポイント）でA-Bボタンを押します。
ディスプレーの [REPEAT] インジケーターが点灯し、A-B インジケーターが点灯します。

3. A-Bリピート再生をオフするには、リモコンの**A-B**ボタンを押します。
ディスプレーの [REPEAT] インジケーターと、A-B インジケーターが消灯し、A-Bリピート再生が解除されます。再生中に解除した場合は、A-Bリピート再生の終点に指定した位置を越えても再生が続きます。

注意

- STOPボタンを押すと、A-Bリピート再生モードを解除します。
- Aポイントよりも前の時間にBポイントを設定することはできません。
- MP3ファイルのA-Bリピート再生はできません。
- 複数のトラックにまたがったA-Bリピート再生はできません。

イントロチェック

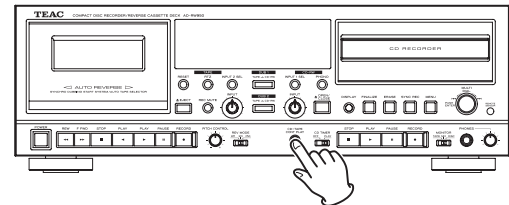
停止中にリモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、CDの各トラックの冒頭が10秒ずつ再生されます。

イントロチェックを途中でやめるには、STOPボタンを押します。イントロチェック中にもう一度リモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、通常再生になります。

メモ

シングル再生モード/ランダム再生モードにてリモコンのINTRO CHECKボタンを押した場合は、通常の再生モードに戻してからイントロ再生を行います。

CDとカセットテープの連続再生

本機にセットしたCDとカセットテープを連続再生することができます。

1. カセットテープとCDを装着します。
2. **CD-TAPE CONT PLAY**ボタン（リモコンの場合は**CONT PLAY**ボタン）を押します。

ディスプレーの TAPE CD インジケーターが点滅します。

3. CD部またはカセット部の**PLAY**ボタンを押します。
選択した再生ソースが再生を始め、再生が終わると他方の再生ソースが再生を始めます。
選択した再生ソースを示すインジケーター（ TAPE あるいは CD ）は点滅したままで、次に再生を開始する側のインジケーター（ CD あるいは TAPE ）は消灯します。

4. 連続再生モードを解除したいときは、もう一度**CD-TAPE CONT PLAY**ボタンを押してください。
再生はそのまま続きますが、TAPE CD インジケーターが消灯します。

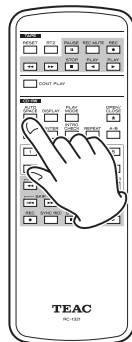
メモ

工場出荷設定では、CDとカセットテープの音はそれぞれ異なるLINE OUTPUTS 1（CD）/2（TAPE/AUTO）端子から出力されますが、メニュー設定の OUT 2 項目を AUTO に設定することにより、LINE OUTPUTS 2（TAPE/AUTO）端子にカセットテープとCDの再生音を出力させることができます（同時に再生した場合はカセットテープの音が優先になります）。

CD の再生 (続き)

オートスペース再生機能

トラック間に約4秒間のスペース（無音部分）を入れることができます。本機能を使ってCDからカセットテープにダビングすると、カセットテープ再生時の選曲（頭出し）が行いやすくなります。

1. リモコンのAUTO SPACEボタンを押します。

ディスプレーの A.SPACE インジケーターが点灯します。

2. オートスペース再生機能を解除するには、もう一度リモコンのAUTO SPACEボタンを押します。
再生を停止した場合もオートスペース再生機能は解除されます。

CDピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（再生の速さ）を変えて再生することができます。

1. MENUボタンを押して、CD PITCH > XXX を表示させます。

2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、CDピッチコントロールの ON または OFF を切り換えます。

3. MENUボタンを押して、PITCH > X.X% を表示させます。

4. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、CDピッチコントロール値を設定します。
設定範囲は、-12.5% ～ +12.5%です。

メモ

- CDピッチコントロール値は、CD PITCH > XXX 項目が OFF の状態でも設定可能です。
- CD PITCH > XXX 表示中にPLAYボタン、PAUSEボタン、SKIP（⏮/⏭）ボタンなどの操作を行った場合は、メニュー表示を優先して表示します。
- CDピッチコントロール再生がオンのとき、CDを停止状態から再生または一時停止させると、ディスプレーに Pitch ON を数秒間表示します（ピッチコントロールとキーコントロールが共にオンのときは、Pitch/Key ON と表示されます）。

注意

- MP3ファイルでは、CDピッチコントロール再生は行えません。
- CD-R/CD-RWへの書き込み中、CDピッチコントロールのメニュー操作は行えますが、CDピッチコントロール機能は働きません。

CDキーコントロール再生

本機では、キー（音程）を変えて再生することができます。

1. MENUボタンを押して、CD KEY > XXX を表示させます。

2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、CDキーコントロール機能の ON または OFF を切り換えます。

3. MENUボタンを押して、KEY LEVEL > XXX を表示させます。

4. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、CDキーコントロール値を設定します。
選択できる設定値は、0（音程の変化なし）、b1 ～ b6、#1 ～#6です。
この状態でCDを再生すると、スピードは変わらず、キー（音程）だけが変化して再生されます。

ヒント

CDキーコントロール機能がオンのときにCDピッチコントロール機能を使うと、再生スピードが変わるだけで音程は変わりません（再生される音程は、KEY LEVEL > XXX 項目で設定された音程に固定されます）。
したがって KEY LEVEL > XXX を 0 に設定してCDキーコントロール機能をオンにしておくと、CDピッチコントロールを使って音程を変えずに再生スピードだけを変えることができます。

メモ

- CDキーコントロール値は、CD KEY > XXX 項目が OFF の状態でも設定可能です。
- KEY LEVEL > XXX 表示中にPLAYボタン、PAUSEボタン、SKIPボタンなどの操作を行った場合、メニュー表示を優先して表示します。
- CDキーコントロール再生がオンのとき、CDを停止状態から再生または一時停止させると、ディスプレーに Key ON を数秒時間表示します（ピッチコントロールとCDキーコントロール機能が共にオンのときは、Pitch/Key ON と表示されます）。

注意

- MP3ファイルでは、キーコントロール再生は行えません。
- CD-R/CD-RWへの書き込み中、CDキーコントロール機能のメニュー操作は行えますが、CDキーコントロール機能は働きません。
- CDキーコントロール機能を使用しているときに再生音が振るえているように聴こえることがありますが、これはCDの再生音を特殊処理しているために発生するもので、故障ではありません。

MP3ファイルの再生

ここでは、MP3ファイルが収録されたディスク（MP3ディスク）を再生する方法を説明します。
MP3ディスクを再生するには、ディスク内の全てのMP3ファイルを再生対象にする方法と、特定のディレクトリ（フォルダー）に含まれるMP3ファイルのみを再生対象にする方法（ディレクトリモード）があります。

メモ

- 本機ではISO9660レベル1、レベル2、またはJolietに準拠したフォーマットで記録されたMP3ファイルを再生することができます。また、マルチセッションで記録されたディスクも再生することが可能です。
- MP3ファイル数とディレクトリ数には、以下のような制限があります。

  最大ディレクトリ数　：255
  最大階層数　：8
  最大MP3ファイル数　：999
  MP3ファイル拡張子名：mp3

- MP3のトラック情報について
  本機では、ファイル名・MP3のTAG情報（曲名やアーティスト名）を表示できません。
- MP3ディスクの場合の時間表示モードは、ELAPSED（トラック経過時間）のみです。

注意

44.1kHz以外のサンプリングレートで変換されたMP3ファイルは、正常に再生できません。推奨フォーマットは、サンプリングレート44.1kHz、ビットレート128kbps以上です。

全てのMP3ファイルを再生する

本機では、MP3ディスクを通常のディスクと同じように再生できます。

1. MP3ファイルが収録されたディスクをセットします。
ディスクの読み込みが完了すると、MP3ディスクの総トラック数が表示されます。総再生時間は表示されません。

メモ

- MP3ファイルが保存されたディスクでは、それぞれのMP3ファイルが「トラック」として扱われます。
- MP3ディスク内部が複数のディレクトリ（階層構造）に分かれている場合でも、子ディレクトリや孫ディレクトリにある全てのMP3ファイルが読み出されます。
- トラック番号は、MP3ファイルがディスクに書き込まれた順番で割り当てられます。
  パソコンでMP3ディスクを作成する場合は、一般的にはアルファベット順で書き込まれますので、その順番で番号が付けられます。
  複数のディレクトリ内にファイルがある場合は、まずディレクトリ内でアルファベット順に並び替えられ、アルファベット順に番号が付けられます。
  ディレクトリ階層が複数段ある場合は、上位の階層から順番に番号が付いていきます。
  たとえば、次ページの図のような構造で全てのディレクトリにファイルがある場合は、A→D→B→Cの順番に番号が付きます。
  すでにファイルを書き込んだディスクに追記（マルチセッション記録）した場合には、追記前のファイルに番号を付けた後に追記したファイルに番号を付けますので、MP3ディスクの作成方法によってはパソコン上で表示されるファイル格納状況と、本機でのトラック番号の割り当て順序が一致しない場合があります。

2. 再生を始めるには、**PLAY**ボタンを押します。
MP3が再生されます。

メモ

- 選曲は、通常のディスクを操作するときと同じように行えます。
- プログラム再生、リピート再生（A-Bリピート再生を除く）などは、通常のディスクと同じように行えます。

注意

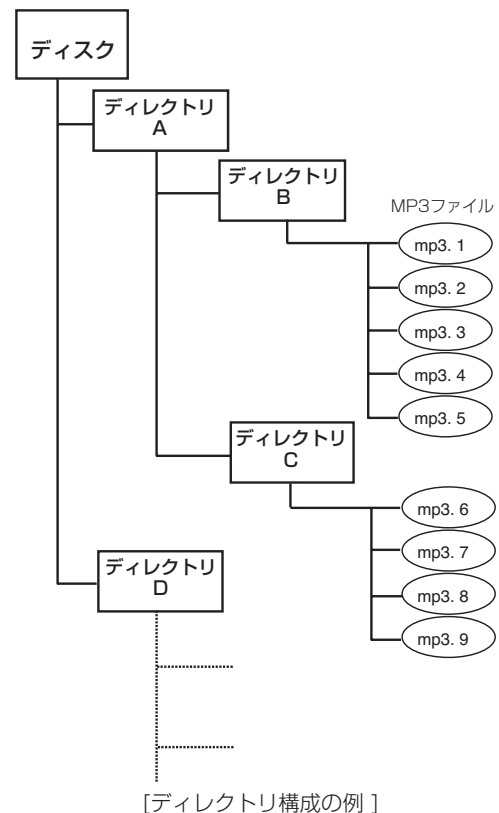
MP3ディスクでは、トラックのサーチが行えません。

ディレクトリを指定して再生する

MP3ディスク内部のディレクトリ単位でMP3ファイルの再生を行うディレクトリモードについて説明します。

ディレクトリ再生について

ディレクトリとは、CDメディアやハードディスク上の階層のことで、フォルダーと呼ばれることもあります。
ディレクトリモードをオンにすると、選択されたディレクトリ内のファイルのみが操作対象になり、プログラム再生、リピート再生なども全て同じディレクトリ内で行われます。
ディレクトリモードがオフのときは、ディレクトリ構造が無視され、ディスクに収録されている全てのMP3ファイルが再生対象になります。

[ディレクトリ構成の例]

注意

ディレクトリモードをオンにすると、ルートディレクトリ（下図のディレクトリAやディレクトリDがある、最上段の階層）にあるMP3ファイルは再生の対象外となります。

ディレクトリ再生の設定

ディレクトリモードのオン/オフを切り換える方法と、ディレクトリモードの操作について説明します。

1. MENUボタンを押して、MP3 DIR > XXX 項目を表示させます。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）を回して、ディレクトリモードのオン/オフを切り換えます。
3. MULTI DIAL（⏮/⏭）を押して、メニューを終了します。
4. 操作対象となるディレクトリを選ぶには、停止中にMULTI DIAL（⏮/⏭）（またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタン）を操作します。
   ディスプレーに MP3 DIR XXX （ディレクトリ番号を選択可能）が表示されます。
   操作を止めてしばらくすると、元の表示に戻ります。このとき最後に表示されていたディレクトリが、操作対象になります。

メモ

MP3ファイルが存在しないディレクトリも操作対象として表示されます。たとえば、図のディレクトリAはDIR001として選択できますが、中にファイルが存在しないので総トラック表示は 0Tr となります。

5. フロントパネル（またはリモコン）のPLAYボタンを押します。
   選択したディレクトリ内で再生が始まります。
   プログラム再生、リピート再生なども、全て同一ディレクトリ内で行われます。

メモ

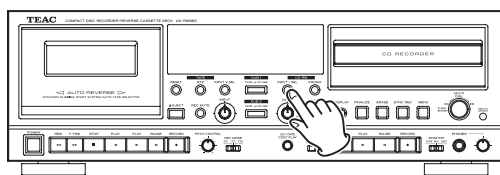
- 再生中はMULTI DIAL（⏮/⏭）（またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタン）を使って、トラック（MP3ファイル）の選択が行えます。
- トラック スキップ操作中は、ディレクトリ番号と目標トラック番号を表示します（ xxxAL xxxTr ）。
  AL はアルバムの意味です。ディスプレー表示上は、ディレクトリを示すために使用しています。

CD-R/RW の録音

録音の前に

- CD の規格により 99 トラック（曲）までしか録音できません。また、4 秒以下の曲は録音できません。
- 録音を始めてから 4 秒以内に STOP ボタンまたは PAUSE ボタンを押した場合は、4 秒経ってから停止します。その間は、無音録音状態になります。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が 0 になった場合は、フェードアウトし、自動でファイナライズを行ったあと Disc Full を表示して停止します。
- 途中まで録音されたディスクをセットした場合は、最終録音部分から続いて録音されます。
- ファイナライズ済みの CD-RW にさらに録音したいときは、一度アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）します。（→ 25 ページ「ファイナライズ」）
- シンク録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルにしたがって録音を開始し、曲を区切ります。このため、冒頭や曲間に無音部分があるソースを録音すると、1 曲当たりの長さ（再生時間）が入力したソースと一致しないことがあります。

入力信号の選択

INPUT 1 SELボタンを押して、入力信号（録音ソース）を選択します。

OPTICAL
　DIGITAL OPTICAL INPUT端子（光デジタル）の入力信号。
　ディスプレーに OPTICAL インジケーターが点灯します。

COAXIAL
　DIGITAL COAXIAL INPUT端子（同軸デジタル）の入力信号。
　ディスプレーに COAXIAL インジケーターが点灯します。

LINE 1
　LINE INPUTS 1（CD）端子（RCAアナログ）の入力信号。
　ディスプレーに LINE 1 インジケーターが点灯します。

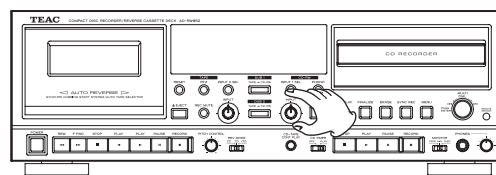
PHONO
　RIAA PHONO INPUT(L/R)端子(RCAアナログ)の入力信号。
　ディスプレーに PHONO インジケーターが点灯します。

TAPE
　本機で再生したカセットテープの音声信号。
　ディスプレーに TAPE インジケーターが点灯します。

メモ

- フォノ入力の操作については、26 ページの「アナログレコードをCDにダビング」をご覧ください。
- カセットテープに録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については、33ページ「カセットテープをCDにダビング」をご覧ください。

入力信号の調整

アナログ信号は、CD部のINPUTつまみで調整します。

デジタル入力信号のレベルを調整する場合は、メニューの VOLUME 項目（デジタルボリューム）を使います。
この機能はアナログ入力に対しても有効ですが、通常はデジタルボリュームを 0 に固定しておき、アナログボリュームで調整することをおすすめします。

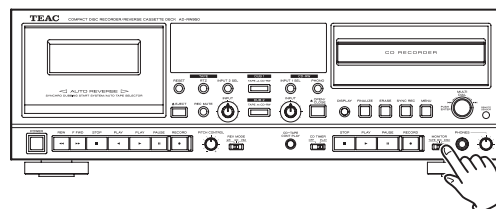
デジタルボリュームを使ったレベル調整

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
2. MENUボタンを押して、VOLUME > XXXdB を表示します。
3. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、レベルを調整します。
   調整範囲は、-60dB ～＋18dBです。
   ---dB で信号を完全にカットします。

注意

INPUT 1がデジタル入力（OPTICAL / COAXIAL）を選択している場合と、アナログ入力（LINE 1 / PHONO / TAPE）を選択している場合とでは異なる値を設定することができます。
VOLUME 項目を設定した後に入力を切り換えた場合は、注意してください。

入力信号のモニター

ディスク未セット時にCD部のRECORDボタン（リモコンの場合はRECボタン）を押すとモニターモードになり、選択中の入力信号がLINE OUTPUTS 1（CD）端子から出力されます。メニューで OUT 2 項目を AUTO に設定した場合は、カセットの音/再生中以外は、LINE OUTPUTS 2（TAPE/AUTO）端子からも出力されます。
なお、MONITORスイッチを「MIX」または「DISC」に設定するとPHONES端子からも出力されます。

ディスプレー上のレベルメーターは、入力レベルを表示します。

注意

再生ディスクがセットされていると、モニターモードになりません。

サンプリングレートコンバーター

本機はCD ー DAフォーマット（サンプリング周波数44.1 k Hz）で録音します。また、本機はサンプリングレートコンバーター（SRC）機能により、44.1kHz以外のデジタルソース（32kHz 〜 48kHz）を録音することができます。
44.1kHzのデジタルソース（CDなど）をディスクにそのまま録音する場合は、SRCをオフにすることをおすすめいたします。

1. MENUボタンを押して、SRC > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、ON または OFF を選択します。

- SRC がオフの場合は、44.1kHz 以外のデジタル入力信号は録音できません。録音しようとすると、エラーメッセージ Not Fs44.1k!（サンプリング周波数が 44.1kHz ではありません！）が表示されます。
- SRC をオフにしてもデジタルボリュームは有効です。デジタル入力された信号とデジタル的に全く同じ信号を録音したい場合は、VOLUME 項目を 0dB に設定してください。

CD-R/CD-RWの基本的な録音

1. POWERボタンを押して、電源を入れます。
2. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレーを開けます。
3. ディスクのレーベル面を上にして、録音可能なCD-RあるいはCD-RWをトレーに載せます。
4. OPEN/CLOSEボタンを押して、ディスクトレーを閉めます。
5. INPUT 1 SELボタンを押して、録音ソースを選びます。
6. トラック番号の付け方を選びます。（→ 27ページ「オートトラック機能（自動トラック番号）」）
7. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
   [REC] インジケーターと ❚❚ インジケーターが点灯し、自動的にOPCを行った後、ディスプレーに Rec Standby を表示して録音待機状態になります。
   - デジタルソースを選択した場合、ソース機器の電源が切れている、または接続が正しくないとエラーメッセージ D-IN UNLOCK!（デジタル入力信号がロックしていません！）が表示されます。

メモ

OPC（Optimum Power Control）とは、録音するために適切なレーザーパワーを調整することです。（→ 8ページ「OPCについて」）

8. 録音ソースの入力レベルを調整します。（→ 23ページ「入力信号の調整」）
   レベルメーターの OVER が点灯しないように調整してください。 OVER が点灯するとデジタルノイズが発生します。
   アナログ録音と異なり、レベルメーターの 0 より上に余裕はありません。

メモ

CDなどを録音する場合は、原則としてメニューの VOLUME 項目を 0dB にすることをおすすめします。デジタルソースのダイナミックレンジをクリップなく録音できます。

9. PLAYボタンを押して、録音を始めます。
   - 録音開始位置を探す必要はありません。自動的に現在の最終曲を検出し、その次から録音を始めます。

メモ

一般のCDプレーヤーで再生できるようにするには、ファイナライズをします。詳しくは、25ページ「ファイナライズ」をご覧ください。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。
ディスプレーの [REC] が点滅し、PMA Writing *（PMA情報を書き込み中）を表示してディスクに録音内容を記録します。

※ PMA＝Program Memory Area

録音を一時停止するには

PAUSEボタンを押します。
もう一度PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押すと、再び録音が始まります。
このとき、トラック番号が新しくなります（1つ繰り上がります）。

ディスクを取り出すには

録音を停止してから、OPEN/CLOSEボタンを押します。

注意

- PMA Writing 表示中は、ディスクに録音内容を記録しています。このためボタン操作は受け付けません。
- PMA Writing 表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

メモ

オーディオCDの規格により、1枚のディスクの最大トラック数は99です。また、各トラックの長さは4秒以上でなければなりません。録音開始後、4秒経過する前に録音を停止しようとしても、4秒経過してから停止します。

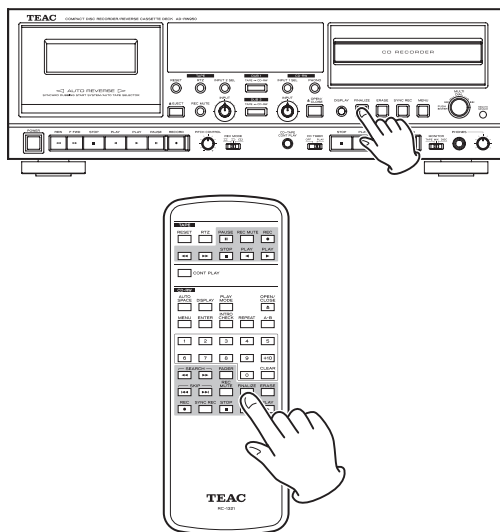
ファイナライズ

TOCを記録することをファイナライズといいます。
本機で録音したディスクは本機では再生できますが、最終的なTOCをディスクに記録するまで、一般のCDプレーヤーでは再生できません。
ファイナライズしたCD-R/CD-RWには、新たに録音できません。

メモ

CD-RWの場合は、アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）すれば再び録音することができます。

- ディスクを正しくセットします。

1. 停止中に、FINALIZEボタンを押します。

ディスプレーに Finalize OK? を表示します。
中止したいときは、STOPボタンを押します。

2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのENTERボタンを押すと、ファイナライズが始まります。
ディスプレーに TOC X:XX を表示し、[REC] インジケーターが点滅を始めます。
ファイナライズが終了すると、Complete を表示します。

注意

- ファイナライズ中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。
- ファイナライズ中は、ボタン操作を受け付けません。

自動ファイナライズ

以下のときは自動でファイナライズを行います。

- 録音の途中でディスクの録音可能時間が0になったとき。
- 99トラック目の録音が終わったとき。

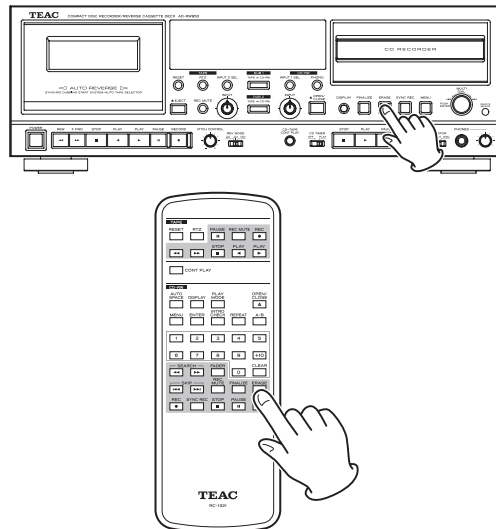
注意

- 自動ファイナライズ中はディスプレーに PMA Writing が2分程度表示されます。
PMA Writing 表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。
- ファイナライズ中は、ボタン操作を受け付けません。

アンファイナライズ

アンファイナライズは、ファイナライズの取り消し作業のことです。
アンファイナライズはCD-RWのみ可能です。

- ファイナライズ済みのディスクを正しくセットします。

1. 停止中に、ERASEボタンを押します。

2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、ディスプレーに Unfinalize OK? を表示させます。
中止したいときは、STOPボタンを押します。

3. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのENTERボタンを押すと、アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）が始まります。
ディスプレーに ERASE X:XX を表示し、NO TOC インジケーターが点滅を始めます。
アンファイナライズ（ファイナライズの取り消し）が終了すると、Complete を表示します。

時間表示モード

録音中もしくは録音待機状態で、DISPLAYボタンを押して時間表示モードを切り換えます。

表示なし　　　：現在のトラックの録音済み時間を表示します。
TOTAL　　　　：ディスクの録音済み時間を表示します。
REMAIN　　　 ：ディスクに録音可能な残り時間を表示します。
TOTAL REMAIN：ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

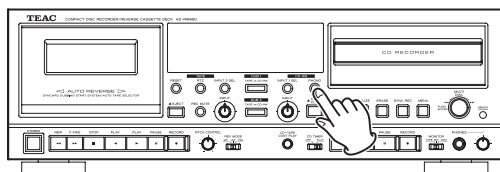
メモ

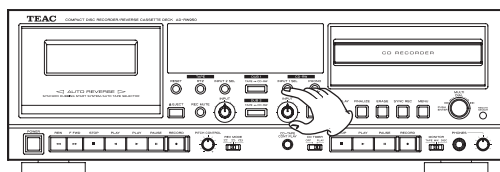
録音中および録音待機状態では、REMAIN と TOTAL REMAIN は同じ内容となります。

CD-R/RW の録音（続き）

アナログレコードをCDにダビング

外部のアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を本機の**RIAA PHONO INPUT**端子に接続することにより、アナログレコードをCDにダビングすることができます。

1. 録音可能なディスクをセットします。
2. **MENU**ボタンを押して、PHONO > XXXX を表示します。
3. **MULTI DIAL**（⏮/⏭）またはリモコンの**SKIP**（⏮/⏭）ボタンを使って、PHONO > DISC を選択します。
4. **MULTI DIAL**（⏮/⏭）またはリモコンの**ENTER**ボタンを押します。
5. **PHONO**ボタンを押します。

ディスプレーに INPUT 1 インジケーターと PHONO インジケーターが点灯し、INPUT 1の入力がフォノ入力であることを示します。
CD部は、録音待機状態になります。

6. 必要に応じて、CD部の**INPUT**つまみで録音レベルを調節します。

7. レコードを再生すると同時に、CD部の**PLAY**ボタンを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。
録音を止めると、ディスプレーの PHONO インジケーターが消灯します。

メモ

- レコードをダビングする場合は、27ページ「オートトラック機能（自動トラック番号）」をオフにすることをおすすめします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にオートトラック機能が働かないことがあります。
- **PHONO**ボタンを使った録音では、手動でトラック番号を更新できません。手動でトラック番号を更新したい場合は、24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で行ってください。
- PHONOソースを録音中は、**STOP**ボタン以外のボタン操作を受け付けません。
- CD側への録音のみ、フォノ入力からの録音を手動で行うことができます。操作方法は、**INPUT 1 SEL**ボタンで PHONO を選択した後、基本的な録音方法で録音します。（→ 24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」）

サウンドレベルの設定

サウンドレベルの設定にしたがって、カセットテープからCDへのダビング、シンク録音、オートトラック機能が働きます。

1. **MENU**ボタンを押して、S_LVL > XXX を表示します。
2. **MULTI DIAL**（⏮/⏭）またはリモコンの**SKIP**（⏮/⏭）ボタンを使って、値を選択します。

選択肢

デジタル入力時：-72dB、-66dB、-60dB、-54dB、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB
アナログ入力時：-54dB、-48dB、-42dB、-36dB、-30dB、-24dB

メモ

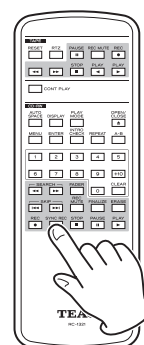
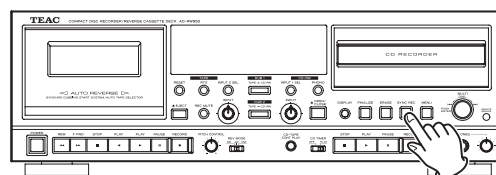
カセットテープあるいはアナログレコードから録音する場合は、サウンドレベルを -30dB 、もしくは -24dB に設定することをおすすめします。
それよりも小さな値に設定すると、ノイズによりオートトラック機能の誤検出が発生しやすくなります。

シンク録音

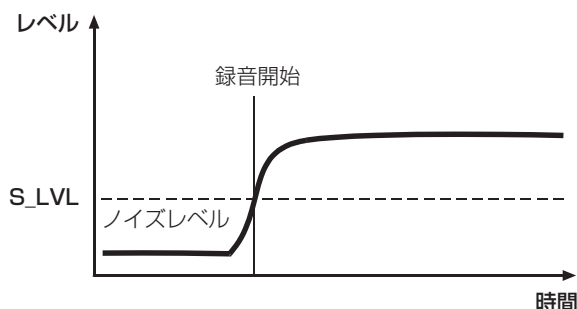
シンク録音とは、ソースの始まりを検出して自動的に録音が始まり、終わりを検出して自動的に録音が終わる録音です。
ソースの始まりや終わりの検出の基準になるサウンドレベルは、メニューを使って設定することができます。（→ 26ページ「サウンドレベルの設定」）

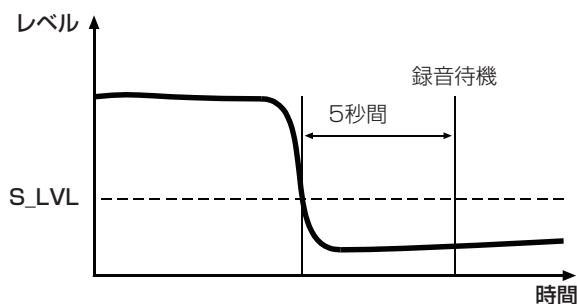
メモ

- レコードをダビングする場合は、シンク録音機能をオフにすることをおすすめします。レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、シンク録音機能が適切に働かないことがあります。
- シンク録音機能は、サウンドレベルのみで行います。

24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」の手順**9.** で**PLAY**ボタンを押すかわりに、**SYNC REC**ボタンを押すとシンク録音の待機状態になります。

このとき、ディスプレーに SYNC ON を表示し、[SYNC] インジケーターが点灯します。
シンク録音の待機状態で以下の信号を検出すると、自動的に録音を

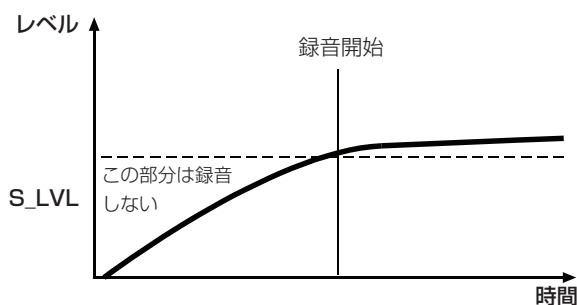
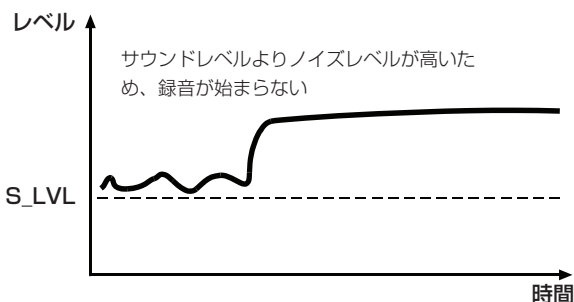
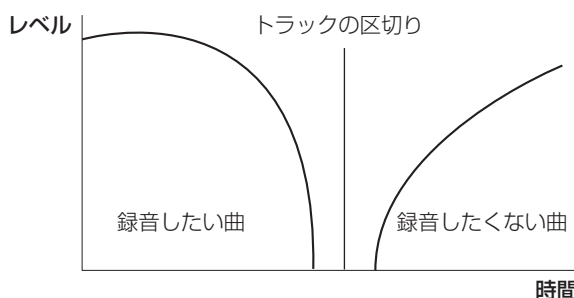
開始します。また、シンク録音中に5秒間無音を検出すると、自動的に録音待機状態になります。

無音状態が1秒以上続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき：

- **無音とは**
  この取扱説明書では、サウンドレベル以下の音を無音と呼びます。

5秒間無音が続いたとき：

メモ

SYNC RECボタンを押すと、SYNC OFF を表示してシンク録音機能がオフになります。
録音中にオン/オフを切り換えることもできます。

注意

- サウンドレベルを高めに設定すると、小さい音から始まる曲の始めの部分が欠けてしまうことがあります。

- 反対に、サウンドレベルを低めに設定すると、アナログソースなどのノイズレベルがサウンドレベルより高くなってしまうことがあります。この場合は、シンク録音機能が働きません（録音が始まりません）。

応用例：

通常のシンク録音では、曲が終わってから5秒の無音録音部分ができますが、28ページ「録音トラック数の指定」とオートトラック機能の DD 設定を組み合わせて使うことで、録音したい曲が終わると同時に録音を終了することができます。
この場合、あらかじめ録音ソース側の録音したい最終曲の後に録音不要な曲を作っておきます。

オートトラック機能（自動トラック番号）

メニューの A_TRK 項目の設定にしたがって、録音中自動的にトラック番号を付けることができます。

メモ

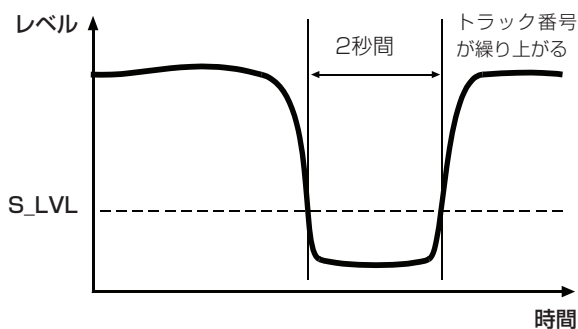
レコードをダビングする場合は、オートトラック機能をオフにすることをおすすめします。
レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、オートトラック機能が適切に働かないことがあります。機能

オートトラック機能の設定

1. MENUボタンを押して、A_TRK > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、次の中から選択します。

   OFF
   オートトラック機能は、働きません。

   LEVEL
   オートトラック機能の動作レベル以下の信号が2秒以上続いた後で、信号が動作レベルを超えるとトラック番号が更新されます。
   オートトラック機能の動作レベルは、メニュー内の S_LVL 項目を使って設定します。
   設定範囲は、-24dB ～ -72dB（6dBステップ）です。
   A_TRK=Level時、ディスプレーの A.TRACK インジケーターが点灯します。

トラック番号が自動的に繰り上がるのは、以下の場合です。

DD

デジタルソース（CD、DAT、MD）を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出し、トラック番号が更新されます。

A_TRK > DD 時、ディスプレーの A.TRACK インジケーターが点灯します。ただし、DD が選ばれているときでも、アナログソース録音時または上記以外のデジタルソース録音時には、Level 設定の場合と同じように、入力レベルに応じてトラック番号が更新されます。

TIME

録音開始後、あらかじめ設定した時間が経過した後で、トラック番号が更新されます。

設定時間は、メニュー内の A_TIME 項目を使って設定します。

設定時間は、1 ～ 10分まで1分単位で設定できます。

A_TRK > TIME 時、録音中または録音待機中は A.TRACK インジケーターが点滅します。

マニュアルでトラック番号を付ける

オートトラック機能（ A_TRK > XXX ）の設定に関わらず、録音中にRECORDボタンを押すと新しくトラック番号を付けることができます。

メモ

PHONOボタンを使った録音では、手動でトラック番号を更新できません。手動でトラック番号を更新したい場合は、24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で行ってください。

録音トラック数の指定

録音するトラックの数を、あらかじめ指定しておくことができます。

1 ～ 99

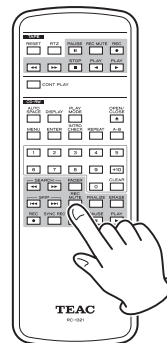
録音中または録音待機中に、MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを押すと、ディスプレーに録音するトラックの数を表示します。

メモ

合計99トラックまで指定できます。

レックミュート

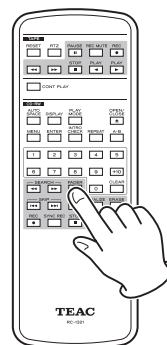
4秒間の無音録音部分を簡単に作ることができます。

録音中にリモコンのREC MUTEボタンを押します。

無音録音が開始され、約4秒後に録音待機状態になります。

- レックミュート機能は、リモコンからのみ操作できます。

フェードイン/アウト

録音中に、入力信号を無音状態から設定したレベルまで上げる（フェードイン）、または現在のレベルから無音状態まで下げる（フェードアウト）ことができます。また、フェードイン/アウトの時間をそれぞれ個別に設定することができます。

1. MENUボタンを押して、FADE IN(OUT) > XXX を表示します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを押して、値を選択します。
   フェードイン/アウトと共に選択できる値は、1秒～ 30秒（1秒単位）です。
3. フェードイン/アウトするときは、録音一時停止または録音状態で、リモコンのFADERボタンを押します。

フェードイン中は FADE IN 、フェードアウト中は FADEOUT をディスプレーに表示します。

メモ

フェードイン中のフェードアウト、フェードアウト中のフェードインも可能です。

消去

CD-RWの場合、録音済みのトラックを消去することができます。ディスク全体、または指定したトラックから最後のトラックまでが消去できます。

- CD-RW を正しくセットします。

1. 停止中に、ERASEボタンを押します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、ディスプレーに以下を表示します。

   ディスク全体を消去する場合は：
   → ERASE DISC ?
   指定したトラックから最後のトラックまでを消去する場合は：
   → ERASE XX-XX ?

   中止したいときは、STOPボタンを押します。
3. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのENTERボタンを押すと、ディスプレーに ERASE X:XX を表示して、消去が始まります。
   消去が終了すると、Complete を表示します。

注意

- 消去中に電源を切らないでください。録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。
- CD-Rは、消去できません。
- 消去中は、ボタン操作を受け付けません。
- 再生モードがシングル再生モード/ランダム再生モード/プログラム再生モードの時は、トラック消去はできません。リモコンのPLAY MODEボタンを使って通常の再生モード（Continue ）にしてから、消去してください。

ディスクリフレッシュ

ファイナライズ中に停電があったディスクやコンピューターで使用したディスクは、本機で認識することができない場合があります。このような場合は、ディスクをリフレッシュします。

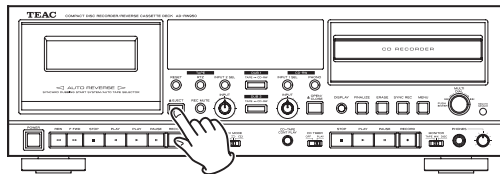
注意

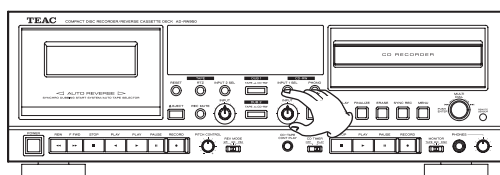
ディスクリフレッシュは、ディスク全体を書き換えます。
全ての記録内容が消去されますので充分ご注意ください。
通常の状態のCD-RWでは、ディスクリフレッシュを行っても記録品質が向上するということはありませんので、この機能を使用する必要はありません。

1. 停止中に、ERASEボタンを押します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、ディスプレーに DISC REFRESH を表示させます。
3. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのENTERボタンを押すと、ディスプレーに ERASE X:XX を表示して、ディスクリフレッシュが始まります。
   ディスクリフレッシュが終了すると、Complete を表示します。

カセットテープの基本的な再生

1. POWERスイッチを押して、電源を入れます。

2. EJECTボタンを押してカセットホルダーを開き、カセットテープを装着します。

A面を手前にし、テープの見える方を下向きにしてカセットテープを入れ、ホルダーを手で押して閉めます。

3. リバースモードを選びます。
REV MODEスイッチを使って設定します。

⊂⊃：A面とB面の往復再生（最大連続5往復）
⊃：A面からB面への両面再生（1往復のみ）
⇄：A面またはB面の片面再生

4. PLAYボタンを押します。
A面を再生する場合はPLAY［►］ボタンを、B面を再生する場合はPLAY［◄］ボタンを押します。

再生を止めるには

STOPボタンを押します。

早送り/巻き戻しをするには

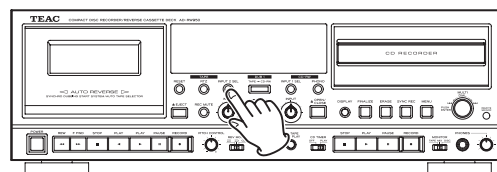
停止中または一時停止中にF FWDボタン/REWボタンを押します。

カセットテープとCDの連続再生

CD-TAPE CONT PLAYボタン（リモコンの場合はCONT PLAYボタン）を押してから、CD部またはカセット部のPLAYボタンを押すと、カセットテープとCDの連続再生を行うことができます。詳しくは、19ページ「CDとカセットテープの連続再生」をご覧ください。

カセットテープの基本的な録音

1. 電源を入れ、カセットテープを挿入します。
カセットテープの誤消去防止用のつめが折れていないことを確認します。折れている場合は、セロハンテープなどでふさいでください。

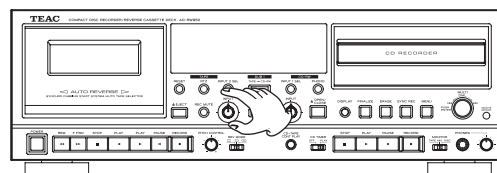
2. INPUT 2 SELボタンを押して、録音ソース（ LINE 2 または DISC ）を選びます。
DISC を選択すると、本機のCD部の出力が録音ソースになります。
LINE 2 を選択すると、リアパネルのLINE INPUT 2（TAPE）端子の入力信号が録音ソースなります。

メモ

- RIAA PHONO INPUT端子の入力信号を録音することもできます。その場合の操作については、31ページ「アナログレコードをカセットテープにダビング」をご覧ください。
- CD-R/CD-RWを録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については、33ページ「CDをカセットテープにダビング」をご覧ください。

3. リバースモードを選びます。
REV MODEスイッチを使って設定します。

⊃：A面からB面への両面録音
⇄：A面またはB面の片面録音

4. カセット部のRECORDボタン（リモコンの場合はRECボタン）を押します。
録音待機状態になり、ディスプレー上ではレベルメーターが入力レベルを表示し、[REC] インジケーターが点灯します。また、LINE OUTPUTS 2（TAPE/AUTO）端子から録音ソースの音が出力されます。なお、MONITORスイッチを「MIX」または「TAPE」に設定すると、PHONES端子からも出力されます。（→ 23ページ「入力信号のモニター」）

5. 録音レベルを設定します。
録音ソースを再生し、レベルメーターを見ながら最適レベルになるように、カセット部のINPUTつまみを使って調節します。

一番レベルの高いときのレベルメーターの指示が、ノーマルテープ、ハイポジションテープでは、0dBぐらいになるように設定します。

6. テープ走行方向を確認/選択します。
ディスプレーのリバース（逆方向）/フォワード（正方向）表示（◀/▶）が、現在のテープ走行方向を示しています。
逆の方向に録音したい場合は、録音方向のPLAYボタンを押すとテープ走行方向が変わります。

7. PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押して、録音を開始します。

録音を止めるには

STOPボタンを押します。

録音を一時停止するには

PAUSEボタンを押します。
この状態から録音を再開するには、PAUSEボタンまたはPLAYボタンを押します。

アナログレコードをカセットテープにダビング

外部のアナログレコードプレーヤー（対応カートリッジ：MMタイプ）を本機のRIAA PHONO INPUT端子に接続することにより、アナログレコードをカセットテープに録音することができます。

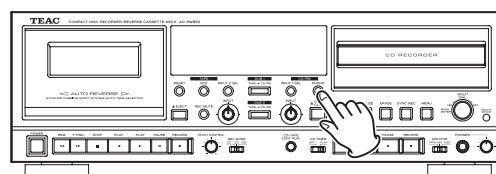
1. 録音の準備をします。
カセットテープをセットし、リバースモードを設定します。

2. MENUボタンを押して、PHONO ＞ XXXX を表示します。

3. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、PHONO ＞ TAPE を選択します。

4. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのENTERボタンを押します。

5. テープの途中から録音したい場合はその位置でRECORDボタン（リモコンの場合はRECボタン）を押して録音待機状態にします。

6. PHONOボタンを押します。

ディスプレーに PHONO インジケーターが点灯します。
録音待機状態ではない場合、自動的にテープがA面の頭まで巻き戻され、リーダーテープ部分を避けるため約8秒送られた後、録音待機状態になります。
録音待機状態の場合は、そのままです。

7. レコードを再生すると同時に、カセット部のPLAYボタンまたはPAUSEボタンを押して録音を開始します。

録音を止めるには

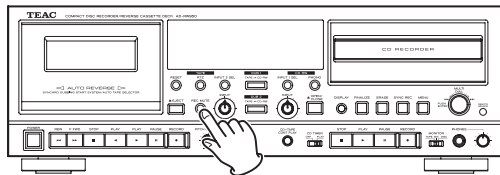
STOPボタンを押します。
録音を止めるとディスプレーの PHONO インジケーターが消灯します。

メモ

- PHONOソースを録音中は、STOPボタン以外のボタン操作を受け付けません。
- ディスプレーに PHONO インジケーターが点灯時のみフォノ入力が録音ソースになり、消灯中はINPUT 2 SELボタンで選択した信号が録音ソースになります。

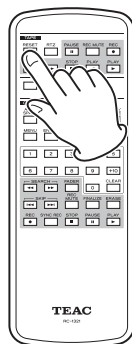
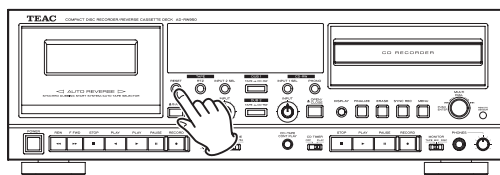
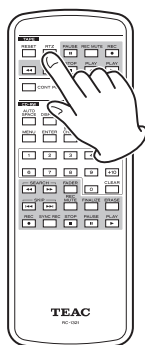
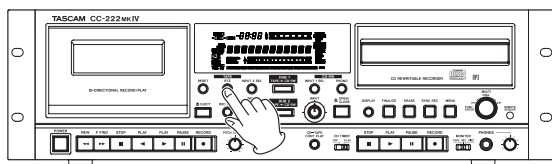
その他の機能

曲間に無音部分を作る（ミュート）

録音中にREC MUTEボタンを押すと、約4秒間の無信号録音が行われた後、一時停止します。

録音を再開するには、PLAYボタンまたはPAUSEボタンを押します。4秒以上の無音部分を作るには、REC MUTEボタンを4秒以上押し続けます。4秒以上押し続けて指を離したときに、録音待機状態になります。

テープカウンター

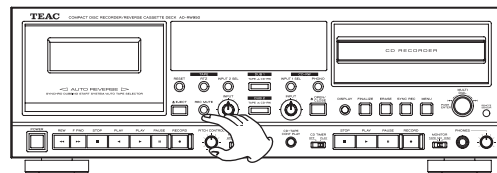
テープが左から右に走行するとカウンター値が増え、右から左に走行するとカウンター値が減ります。

RESETボタンを押すと、カウンター値が 0000 にリセットされます。

RTZボタンを押すと、0000 位置にロケート（移動）します。

注意

カウンター値 9995 ～ 0004 の範囲内では、RTZ（Return-to-zero）機能が働きません。

ピッチコントロール

本機のカセット部には、再生時に働くピッチコントロール機能が付いています。

PITCH CONTROLつまみがセンター位置（クリックがある位置）のときは、標準ピッチです。

右に回すとスピードが速くなり、左に回すと遅くなります（±10%の範囲）。

LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子の機能を変更する

LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO) 端子にテープの再生音だけを出力するか、カセットテープとCDの再生音を自動的に切り換えて出力するかを選択することができます。

1. MENUボタンを押して、OUT2 > XXX 項目を表示させます。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）を回して、TAPE / AUTO を切り換えます。

   TAPE：カセットテープの再生音を出力します。

   AUTO：カセットテープとCDの再生音を自動的に切り換えて出力します。

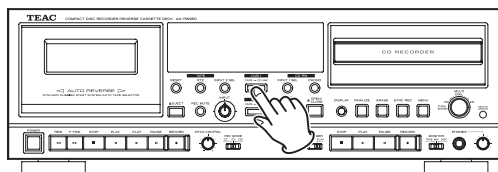
   カセットテープとCDを同時に再生した場合は、カセットテープの再生音が優先されます。
3. MULTI DIAL（⏮/⏭）を押して、メニューを終了します。

ダビング

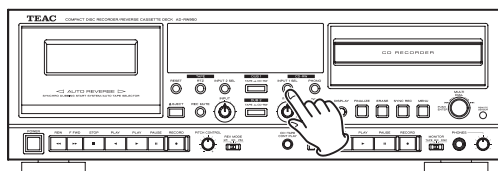
本機にセットしたCDとカセットテープ間のダビング（CD→カセットテープ、カセットテープ→CD）を行うとき、DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンまたはDUB 2 [TAPE←CD-RW] ボタンを使ったダビング機能を使うと便利です。

カセットテープをCDにダビング

簡単にダビングするには

1. カセットテープをセットします。
   最初に再生する面を表側にしてセットします。
   リバースモードの設定も行います。
2. 録音可能なディスク（CD-R/RW）をセットします。
3. MENUボタンを押して、DUB > VOL 項目を表示します。
   設定が THRU（初期設定）であることを確認します。
   メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定すると、ダビング時にINPUTつまみをバイパスして、適正なレベルで録音します。（→ 34ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」）
   THRU が選択されていない場合は、MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って THRU に切り換えます。
4. DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。

   ダビングが始まります。
   自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（ DUB インジケーター点滅）。
   ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、カセットテープとCDの両方が停止してダビングが終了します。

録音レベルを調整してダビングするには

1. カセットテープをセットします。
   最初に再生する面を表側にしてセットします。また、リバースモードの設定などを行います。
2. 録音可能なディスク（CD-R/RW）をセットします。
3. メニューの DUB > VOL 項目を ON に設定します。
4. INPUT 1 SELボタンを押して、ディスプレーに TAPE インジケーターを点灯します。

   カセットテープが録音ソースになります。
5. CDのRECORDボタンを押し、録音レベルを調節します。
   （→ 24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」）
6. カセットテープとCDが停止状態であることを確認し、DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。
   自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（ DUB インジケーター点滅）。
   ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはカセットテープが停止すると、カセットテープとCDの両方が停止してダビングが終了します。

ダビングを途中でやめるには

カセット部またはCD部のSTOPボタンを押します。

メモ

以下の場合にダビングが実行できません。

- 録音可能なディスクがセットされていない。
- カセットテープがセットされていない。
- カセットテープおよび CD が停止していない。

カセットテープの途中からCDにダビングするには

1. 希望のテープ位置にロケート（移動）してから、カセット部のPAUSEボタンを押します。
2. DUB 1 [TAPE→CD-RW] ボタンを押します。
   カセットテープが再生を始めると同時にCDへの録音が開始されます。

CDをカセットテープにダビング

本機にセットしたCDをワンタッチでカセットテープにダビングすることができます。

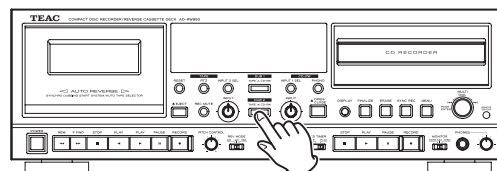
準備

1. CDをセットします。
   ダビングの際もCDのプログラム再生モード、ランダム再生モード、シングル再生モード、リピート再生（A-Bリピート以外）などの機能が使えますので、必要に応じて設定を行ってください。
   特に設定をしなければ、1曲目から順にダビングを行います。
2. カセットテープをセットします。
3. 通常は、メニューの DUB > VOL 項目を THRU に設定します。これによりダビング時にINPUTつまみをバイパスして、本機内部で適正な録音レベルに自動設定されます。（→ 34ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」）

メモ

- INPUT 1 SELボタンで録音ソースを選択する必要はありません。
- 録音レベルを手動で調節したい場合は、メニューの DUB > VOL 項目を ON に設定し、24ページ「CD-R/CD-RWの基本的な録音」で述べた方法で調節します。

カセットテープのA面の頭から録音するには

1. 停止中にDUB 2 [TAPE←CD-RW] ボタンを押します。

   自動的にA面の頭までテープが巻き戻され、テープカウンターが 0000 にリセットされます。
   CDは、最初の曲の頭で一時停止して待機します。
   次に、カセットは約8秒の無信号録音を行った後（リーダーテープ部分を避けるため）、CDの演奏と同時に録音モードになり、ダビングを開始します（ DUB インジケーター点灯）。

カセットテープの途中から録音するには

1. 録音したい位置までテープを送ります。
2. RECORDボタン（リモコンの場合はRECボタン）を押して、録音待機状態にします。
   ディスプレーに [REC] インジケーターと ❚❚ インジケーターが点灯します。
3. DUB 2 [TAPE ⇀ CD-RW] ボタンを押します。
   録音方向設定にしたがって、その位置からダビングを開始します。

メモ

- CDの再生が終わるか、もしくはテープが全て巻き取られて停止するとダビングが終了します。
- 両面録音モードでダビング中に曲の途中でA面からB面に反転した場合は、その曲は新たにB面の最初から録音されます。
- 両面録音モードでダビング中、走行方向が反転後8秒間は録音を行いません（カセットテープは録音中ですが、CDは再生を一時停止します）。

CDの途中からカセットテープにダビングするには

1. CDのトラックを選択して、CD部のPAUSEボタンを押します。
2. カセットテープの途中から録音する場合は、その位置にロケート（移動）してからRECORDボタン（リモコンの場合はRECボタン）を押して、録音待機状態にします。
   上記操作を行うとき、MONITORスイッチを「MIX」に設定してヘッドホンでモニターすると、カセットテープとCDの両方の音が聴こえるので便利です。（→ 23ページ「入力信号のモニター」）
3. DUB 2 [TAPE ⇀ CD-RW] ボタンを押します。
   ダビングが始まります。ただし、カセットテープがA面の頭以外の位置で停止中の場合は、A面の頭にロケート（移動）してからダビングが始まります。

ダビングを途中でやめるには

カセット部またはCD部のSTOPボタンを押します。

メモ

以下の場合はダビングすることができません。

- ディスク（CD-R/RW）がセットされていない。
- カセットテープがセットされていない。あるいは誤消去防止用のつめが折れている。
- 何も録音されていないでディスク（CD-R/RW）がセットされている。
- カセットテープの状態が停止または録音待機状態になっていない。
- CD が停止や一時停止以外の状態になっている。

ダビング時にINPUTつまみを無効にする

本機のダビング機能を使ってCDとカセットテープ間のダビングを行う場合、INPUTつまみに関係なく録音レベルを自動設定することができます。

1. MENUボタンを押して、DUB > VOL 項目を表示します。
2. MULTI DIAL（⏮/⏭）またはリモコンのSKIP（⏮/⏭）ボタンを使って、THRU を選択します。
   ON を選択するとダビング時にもINPUTつまみが働きます。

メモ

- この設定は、DUB 1 [TAPE ⇀ CD-RW] ボタンまたはDUB 2 [TAPE ⇀ CD-RW] ボタンを使ったCDとカセットテープ間のダビング時にのみ有効です。
- ダビング中にこのメニュー設定を見る（確認する）ことはできません。

メッセージ一覧

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示されたときは、STOPボタンを押してから原因を取り除いてください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。

メッセージ	内容
Cannot Rec !	録音できません。ディスクを交換してください。
Disc Error !	ディスクに何らかの問題があり本機では読み取ることができません（本機では対応していないフォーマットで作成されたディスクの場合もこのメッセージが表示されます）。 ディスクを交換してください。
Disc Full !!	トラック数または録音時間が限界に達したため録音を停止します。
Drive Error!	CD-RWドライブに問題があります。
D-IN UNLOCK!	デジタル音声信号が入力されていません。 出力側の機器の電源は、入っていますか？ デジタル出力の設定は、正しいですか？ ケーブルが抜けていませんか？
	接続したデジタル機器の電源がオフです。 電源を入れてください。
Cannot ERASE!	本機では消去できないフォーマットのCD-RWです。あるいは、通常の再生モード（ Continue ）以外でトラック消去しようとした場合にも表示されます。 通常の再生モード（ Continue ）にしてから消去してください。
Erase Error!	消去中にエラーが発生しました。
Not Fs44.1k!	入力されたデジタル音声信号のサンプリング周波数が44.1kHzではありません。 メニューでSRC ONを選択するとサンプリング周波数44.1kHz以外も録音できます。
PGM Full !	すでに99曲プログラムされています。
Rec Error!	録音中にエラーが発生しました。 ディスクに問題がある可能性がありますので、別のディスクで録音をやり直してください。
System Err!	システムエラーです。
Tray Error !	ディスクトレーに問題があります。
SCMS Error!	シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)の規格により録音できません。(8 ページの「デジタル録音するときのルール」参照)
Data Disc	音楽用ではないCD-RまたはCD-RWに録音しようとしています。録音には音楽用のCD-RまたはCD-RWを使用してください。
NotConsumer!	DIGITAL INPUTからの入力信号が業務用フォーマット(AES/EBUなど)になっているため録音できません。民生用フォーマット(S/PDIF)を入力してください。

動作時のメッセージ

メッセージ	内容
Complete	ファイナライズまたは消去などが完了しました。
Now OPC	最適な状態で録音するために、使用ディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています。 （OPC＝Optimum Power Control）
Now REPAIR	ディスクを修復中です。
PMA Writing	録音した内容をディスクに記録しています。（PMA＝Program Memory Area）
TOC Reading	TOC情報を読み取り中です。 （TOC=Table of Contents）
REC Standby	録音待機状態になりました。
Blank Disc	何も録音されていないディスクがセットされました。
NO DISC	ディスクが挿入されていないときに表示します。

仕様

CD部

再生対応ディスク
CD、CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA
（12cm、8cm、CD-RWはHigh Speed に対応）

記録対応ディスク
音楽用CD-R/CD-RW (CD-R-DA/CD-RW-DA)

再生ディスクフォーマット
CD-DA、CD-ROM ISO9660 LEVEL1/2Joliet format、
マルチセッション対応

再生ファイル形式
CD-DA：44.1kHz、16bitステレオ
MP3：44.1kHz、64kbps ～ 320kbps、VBR

録音ファイル形式
CD-DA：44.1kHz、16bitステレオ

周波数特性
20 ～ 20kHz ±0.8dB（再生時）
20 ～ 20kHz ±1.0dB（記録時）

S/N比
92dB（再生時）
88dB（記録時）

ダイナミックレンジ
92dB（再生時）
88dB（記録時）

歪率
0.006%（再生時）
0.01%（記録時）

チャンネルセパレーション
80dB（再生時：1kHz）
75dB（記録時：1kHz）

ワウフラッター
測定限界以下（0.001%以下）

アナログ音声入力
LINE INPUTS 1 (CD)　：RCAピン
基準入力レベル　：-10dBV（FS：-16dB）
最大入力レベル　：+6dBV
入力インピーダンス　：50kΩ

アナログ音声出力
LINE OUTPUTS 1 (CD)：RCAピン
基準出力レベル　：-10dBV（FS：-16dB）
最大出力レベル　：+6dBV
出力インピーダンス　：600Ω

デジタル音声入力
COAXIAL　：RCAピン IEC60958-3
OPTICAL　：光デジタル音声端子(角型コネクタ)
IEC60958-3
フォーマット　：IEC-60958-3
（S/PDIF、SCMS準拠）
入力可能サンプリング周波数：32kHz ～ 48kHz

デジタル音声出力
COAXIAL　：RCAピン IEC60958-3
OPTICAL　：光デジタル音声端子(角型コネクタ)
IEC60958-3
フォーマット　：IEC-60958-3
（S/PDIF、SCMS準拠）

カセット部

トラック方式
4トラック2チャンネルステレオ

ヘッド構成
録音/再生ヘッド x1（回転リバース式）
消去ヘッド x1

使用テープ
C-46 ～ C-90タイプカセットテープ（メタルテープは再生のみ）

テープ速度
4.76cm/sec

モーター
DCサーボモーター　：x1

ワウフラッター
0.25%（W.RMS）

周波数特性（総合）
ノーマル　：30 ～ 13kHz±4dB
ハイポジション　：30 ～ 15kHz±4dB

S/N比
53dB（最大録音レベル入力時 A-Weight）

早巻時間
約160秒（C - 60テープ）

入力
LINE INPUTS 2 (TAPE)：RCAピン
基準入力レベル　：0.28V（-11dBV）
入力インピーダンス　：50kΩ以上

出力
LINE OUTPUTS 2 (TAPE/AUTO)：RCAピン
基準出力レベル　：0.46V（-6.7dBV）
出力インピーダンス　：1kΩ

PHONOアンプ部

対応カートリッジ（MMタイプ）
入力感度　：5.6mV
入力インピーダンス　：50kΩ
S/N比　：60dB

ヘッドホン出力
10mW+10mW（32Ω負荷）

ヘッドホン端子
6.3mmステレオ標準ジャック

一般

電源

AC100V、50－60Hz

消費電力

34W

外形寸法

435×143×295mm（幅×高さ×奥行き）

質量

6.0kg

- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービス

■ 保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を製造打ち切り後 6 年間保有しています。

■ ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるときは

35 ページの「エラーメッセージ」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料 / 梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：CD/Cassette Recorder
AD-RW950
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況 (できるだけ詳しく)

■ 廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

保 証 書

品名および形名	CD/Cassette Recorder AD-RW950	
機番		
保証期間	本体	1年
お買上げ日	年　月　日	
お客様	お名前	様
	ご住所	〒 電話　(　　)

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	所在地・名称(印) 電話　(　　)

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 本書の提示がない場合
   (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社　〒 206-8530　東京都多摩市落合 1-47　http://teac.jp

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせ

AV お客様相談室 〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47

0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用頂けない場合

電話:042-356-9235 / FAX:042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせ

ティアック修理センター 〒 358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30 ~ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● ナビダイヤルがご利用頂けない場合

電話:04-2901-1033 / FAX:04-2901-1036

● 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

0615.MA-2148E